

高校再編後期計画(最終案) 説明会

次 第

- 1 開会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 説明
- 4 質疑
- 5 閉会

岩手県教育委員会

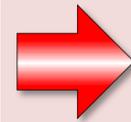
1 高校再編計画後期計画について

ア 後期計画(最終案)の概要について ①

1 後期計画の基本的な考え方

(1) 生徒の希望する進路の実現

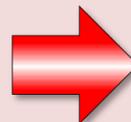
生徒の進路実現に向けた、学力及び専門技術の定着・向上等



- ① 各ブロック内の学校規模をできる限り維持し、学びの選択肢を確保
- ② 進学や専門分野の深い学びを希望する生徒のため、一定の学校規模も維持

(2) 地域や地域産業を担う人づくり

地域人材の育成等について高校の持つ役割の重要性や地域からの期待等



- ① 各地域の学校をできる限り維持
- ② 多様な分野の学びも確保し、産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備

ア 後期計画(最終案)の概要について ②

2 後期計画の具体的な取組

(1) 各地域における学びの選択肢の確保(原則として現在の学科、学級数を維持)

- ・ 地方創生の推進に大きな役割を果たしている学校においては、所在する自治体と連携した教育活動の充実が進められていることから、一定の入学者のいる1学級校を維持
- ・ 県政課題への対応、産業人材の育成を担う役割がある1学年7学級等の学校は、学校規模を確保

(2) 盛岡ブロックにおける特色ある教育を実践する大規模校の設置(盛岡南高校と不来方高校の統合)

- ・ 県内各地域から生徒が集まる盛岡市内の高校への生徒の集中を緩和
- ・ 体育、芸術、外国語等の特色ある教育を実践する学校規模の大きさを生かした発展的な統合により、さらに先導的な実践に取り組むことができる教育環境を整備

ア 後期計画(最終案)の概要について ③

2 後期計画の具体的な取組

(3) 地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備

ア 盛岡ブロックにおける工業高校の整備 (盛岡工業高校の移転を検討)

急速に変化する社会環境に対応できるよう新たな学びを取り入れること等も検討しながら、施設等の老朽化を踏まえ、産業人材に関する幅広いニーズや最先端の工業の学びに対応できる教育環境を整備

イ 県南地域における大規模な工業高校の設置 (水沢工業高校と一関工業高校の統合)

時代に対応した新しい学びの創設も検討しながら、産業人材のニーズに幅広く対応できる工業教育の充実に向けて教育環境を整備

ウ 宮古ブロックにおける専門高校の整備 (宮古商工高校と宮古水産高校の一体的な整備)

老朽化が進む両校の校舎等を同一校地内に集約し、各専門分野に関する特色ある学科の機能を連携させて幅広く学びつつ、地域産業との連携による専門教育の充実等も図ることができる教育環境を整備

エ 二戸ブロックにおける専門教育を担う学校の設置 (福岡工業高校と一戸高校の統合)

ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科等の機能を維持しつつ、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる学校として教育環境を整備

ア 後期計画(最終案)の概要について ④

3 後期再編プログラム総括表

設置タイプ等 \ 年度	前期計画 統合延期校	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
専門高校						水沢工業※2 一関工業
専門学科・総合 学科併置高校	久慈東※1 久慈工業				福岡工業 一戸	
普通高校						盛岡南 不来方
学級減				盛岡南 不来方		
学校数(全日制)		62	62	62	61	59
学級数(全日制)		224	224	222	221	217

※1 令和3年度入試の状況等により統合時期等を判断することとしており、その状況により、表の数値が変更となる場合があります。

※2 令和7年度以降の統合を計画しています。

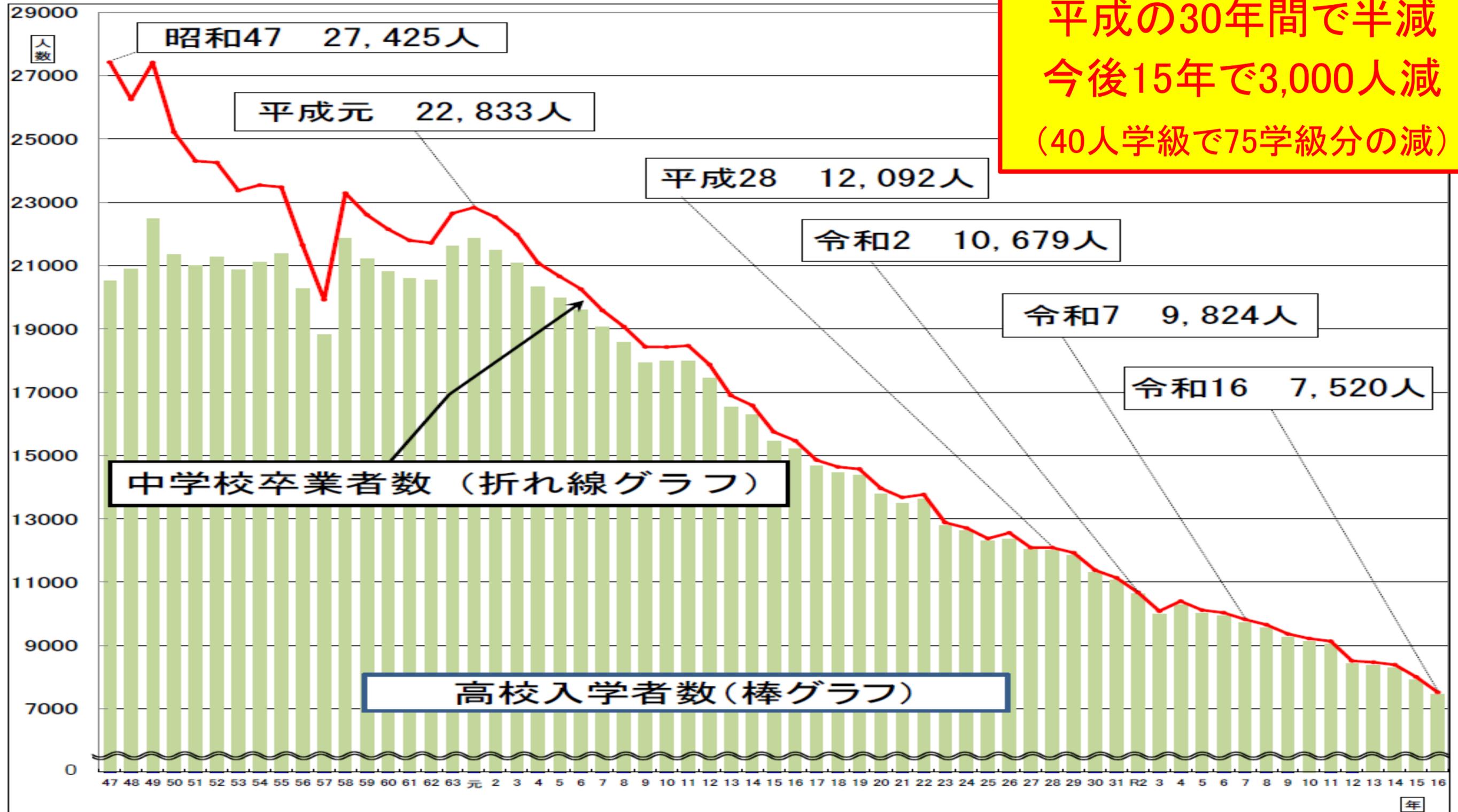
イ 後期計画の検討に当たり本県の高校の在り方において目指した姿

- 県内において、どの地域に居住しても高校教育を受けられる機会の保障
- 将来の高校生（現在の小学生以下の子どもたち）も充実した高校生活を送ることができる環境の整備

2 県立高校における現状と課題について

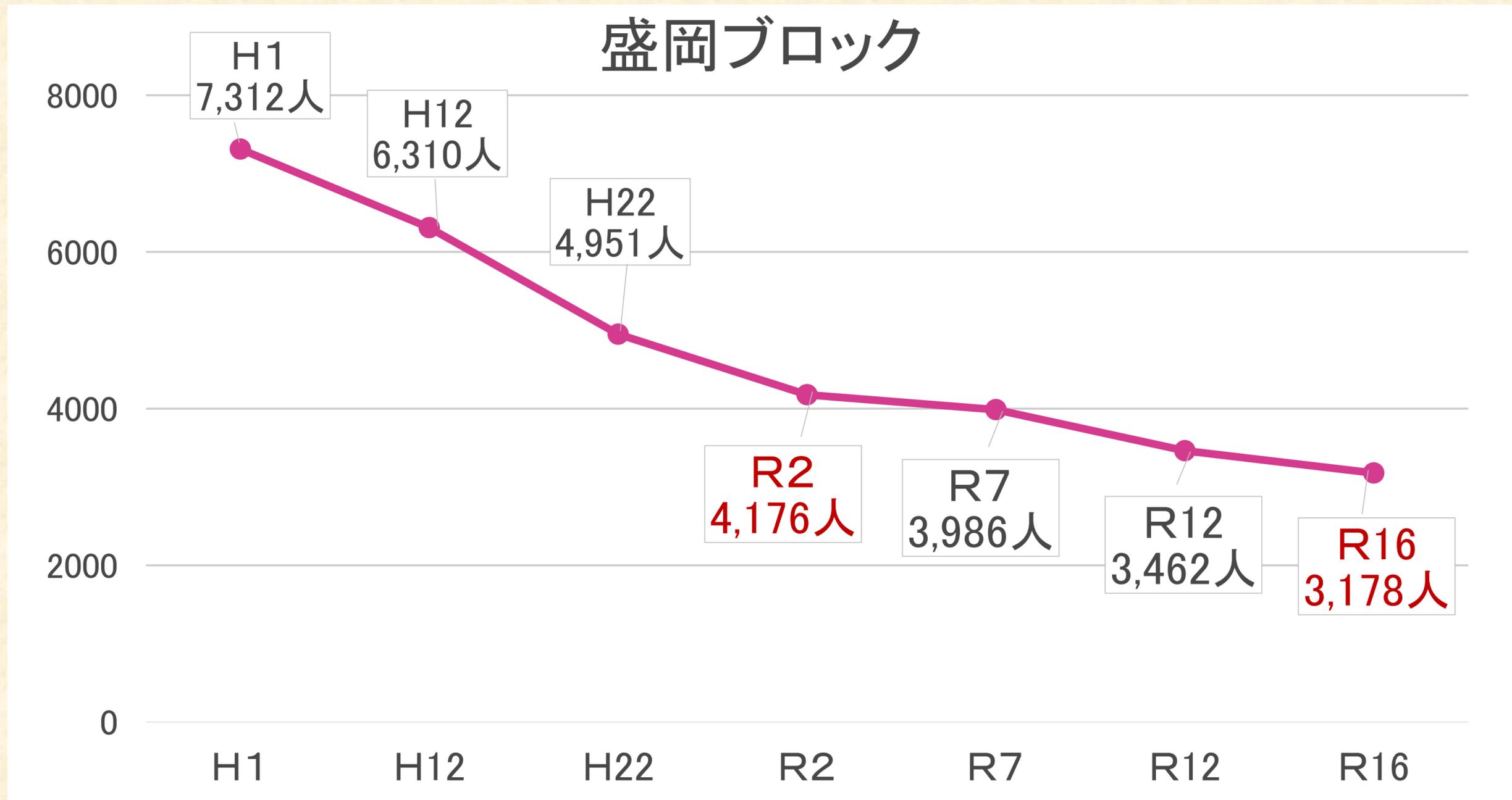
ア 中学校卒業生数と高校入学者数の推移

岩手県における中学校卒業生数及び高校入学者数の推移



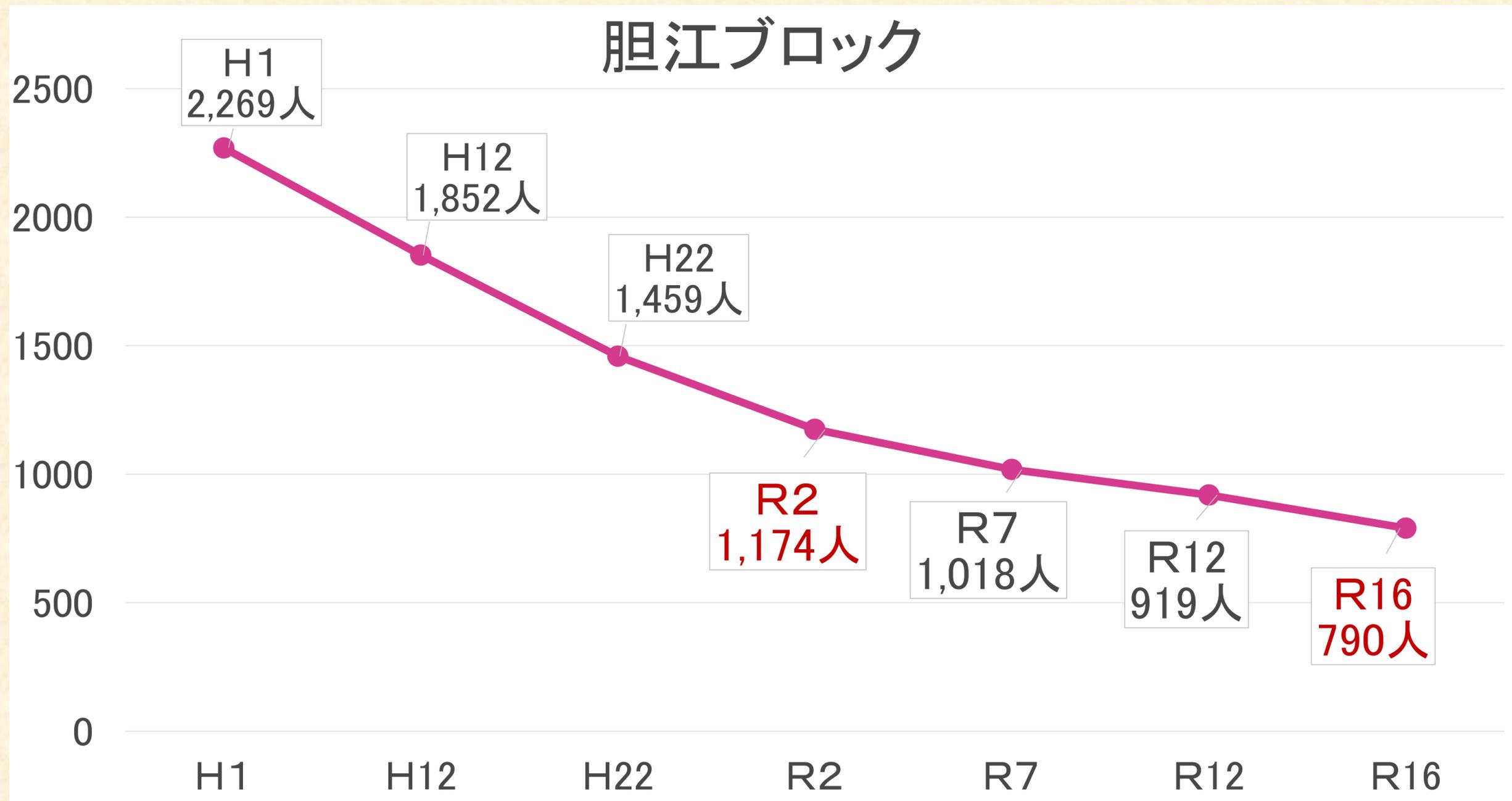
平成の30年間で半減
今後15年で3,000人減
(40人学級で75学級分の減)

【補足】 中学校卒業生数の推移（盛岡）



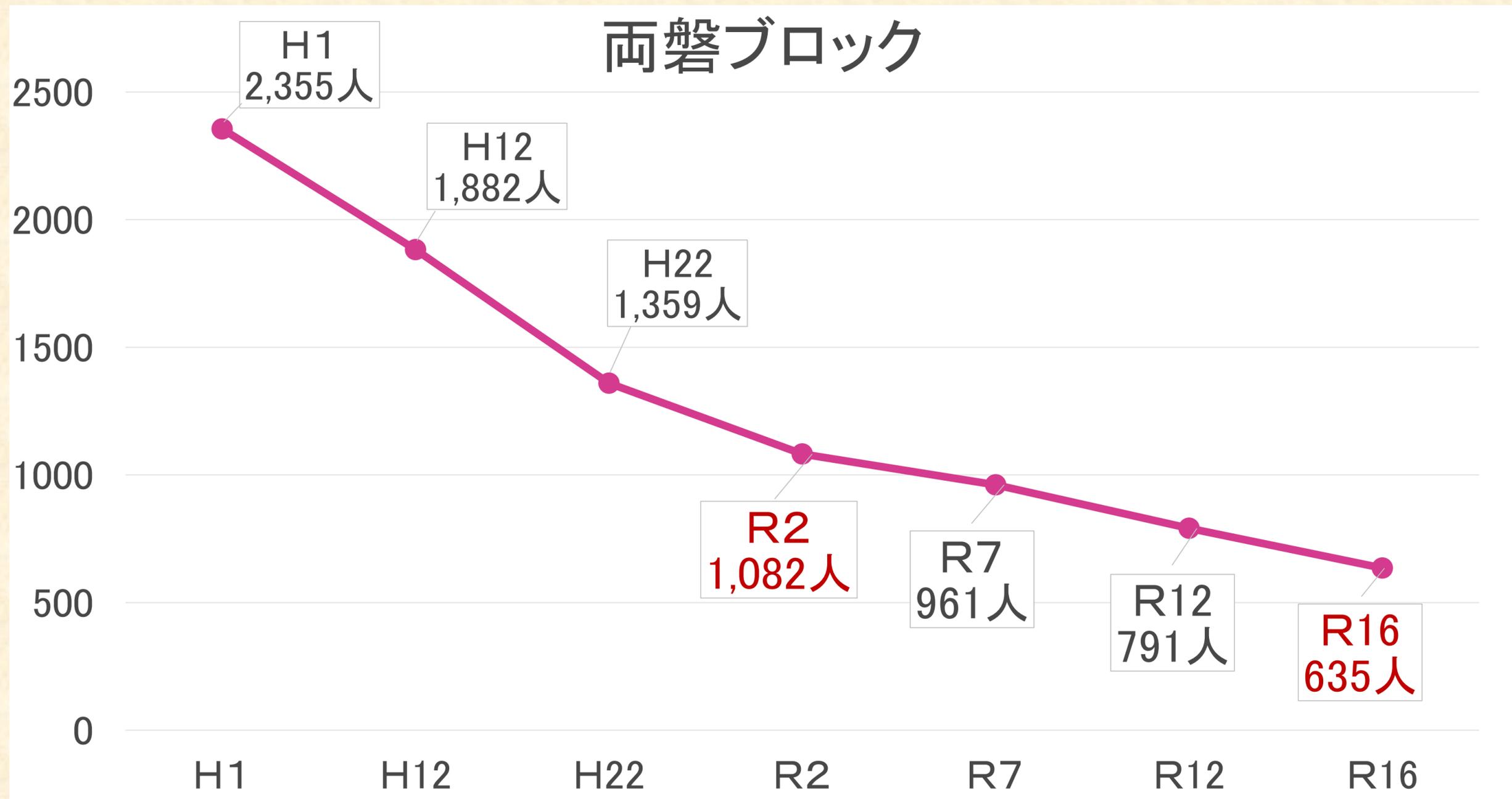
今後15年で 約1,000人減
(40人学級で25学級分の減)

【補足】 中学校卒業生数の推移（胆江）



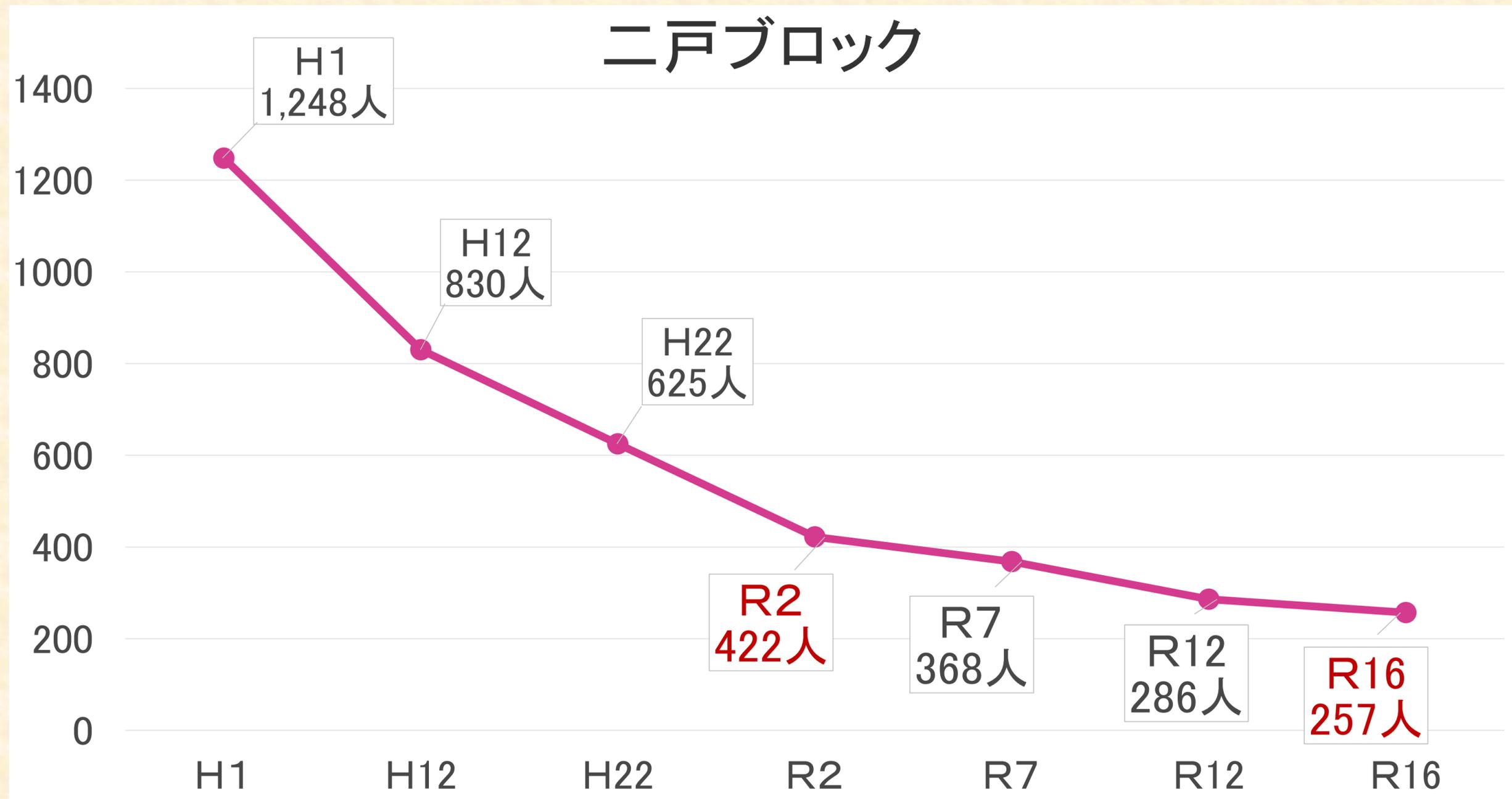
今後15年で約400人減
(40人学級で10学級分の減)

【補足】 中学校卒業生数の推移（両磐）



今後15年で約450人減
(40人学級で11学級分の減)

【補足】 中学校卒業生数の推移（二戸）



今後15年で約160人減
(40人学級で4学級分の減)

【補足】 県立高校における過去20年間の統合実績及び学校数の推移

ブロック	統合となった学校(H12～)
盛岡	(なし)
岩手中部	北上農業高校、東和高校
胆江	胆沢高校、岩谷堂農林高校
両磐	千厩東高校、一関農業高校、大原商業高校、藤沢高校
気仙	広田水産高校、大船渡農業高校、大船渡工業高校
釜石・遠野	釜石南高校、釜石北高校、遠野高校情報ビジネス校、釜石工業高校、釜石商業高校
宮古	宮古高校川井校、岩泉高校田野畑校、宮古工業高校、宮古商業高校
久慈	久慈農林高校、久慈商業高校、久慈水産高校、久慈高校山形校
二戸	福岡高校浄法寺校

学校数の推移

H12	H17	H22	H27	R2
84校	77校	64校	63校	62校

イ 高校の規模(県立全日制)【ブロック別】

小規模校が47%

小規模校は
県内各地に所在

大規模校は

- ・盛岡地区
- ・県央部 に多い

市町村の高校設置数

- ・2校以上 → 13市町
- ・1校 → 17市町村
- ・0校 → 3町村

学校規模	学校数	ブロック								
		盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
7学級	4	盛岡一 盛岡三 不来方 盛岡工業								
6学級	7	盛岡四 盛岡南 盛岡商業	花巻北 黒沢尻北 黒沢尻工	水沢						
5学級	11	盛岡二 盛岡北 盛岡農業	花巻南 北上翔南		一関一 一関二 千厩			宮古 宮古商工	久慈東	
4学級	11	紫波総合	花北青雲	水沢工業 岩谷堂		高田 大船渡 大船渡東	釜石 遠野		久慈	福岡
3学級	6		花巻農業	水沢商業	一関工業 大東		釜石商工			一戸
2学級	14	沼宮内 葛巻 平舘		水沢農業 前沢 金ヶ崎			遠野緑峰 大槌	宮古水産 岩泉	久慈工業 種市	軽米 福岡工業
1学級	9	雫石	大迫 西和賀		花泉	住田		山田 宮古北	大野	伊保内
	62	15	9	7	6	4	5	6	5	5

ウ 各種事業の対象校一覧(県立全日制)【ブロック別】

事業等区分		数	各ブロックの対象校								
			盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
ネットワーク 進学 支援 事業	合同事業 担当校	7校	盛岡一 盛岡三 盛岡四 盛岡北	花巻北	水沢	一関一					
	コアプログラム 対象校	14校	盛岡二 盛岡南 不来方	花巻南 黒沢尻北 西和賀	前沢 金ヶ崎	一関二 大東 千厩		遠野			福岡 軽米
	探究プログラム 重点校	8校	盛岡一 盛岡三	花巻北 黒沢尻北			大船渡		宮古	久慈	福岡
高校の魅力化 促進事業対象校		28校	沼宮内 葛巻 平舘 雫石	花巻農業 大迫 西和賀	水沢農業 水沢商業 前沢 金ヶ崎	一関工業 花泉 大東	住田	釜石商工 遠野緑峰	山田 宮古北 宮古水産 岩泉	久慈工業 種市 大野	軽米 伊保内 福岡工業 一戸

生徒の希望する進路の実現や魅力ある学校づくり等について
支援する事業を各ブロックに所在する学校を対象として幅広く展開

エ 学校規模別の状況 ①

(1) 学校規模と教員数の状況

[県立普通科高校の例] ※実際に配置された教諭、養護教諭等の合計

規 模	1学級校	2学級校	3学級校	4学級校	5学級校	6学級校	7学級校	8学級校
教員数	11	18	22	29	33	42	51	55

(2) 学校規模と科目の開設状況

[県立普通科高校の例]

学校規模	学校名	理 科			地歴公民		
		教員数	教員の専門科目	専門の教員が配置されない科目	教員数	教員の専門科目	専門の教員が配置されない科目
3学級	A高校	3	物、生、化	地学	3	日、地、公	世界史
4学級	B高校	4	物、生2、化	地学	4	日、世、地、公	
	C高校	4	物、生、化2	地学	5	日、世2、地、公	
5学級	D高校	5	物、生2、化2	地学(非常勤講師で対応)	5	日、世、地、公2	
6学級	E高校	7	物2、生2、化3	地学	5	日2、世、地、公	
	F高校	7	物3、生2、化2	地学	6	日、世2、地、公2	
7学級	G高校	9	物3、生3、地、化2		9	日2、世3、地2、公2	

一定の学校規模があると教員数が充足し、理科や地歴公民等の専門教員を複数配置できる。

エ 学校規模別の状況 ②

(3) 学校規模と設置部活動数の状況

[県立高校の平均]

種別	1学級校	2学級校	3学級校	4学級校	5学級校	6学級校	7学級校
運動部	8.0	12.6	16.7	20.2	22.7	26.6	29.0
文化部	3.6	4.6	6.5	8.3	11.8	10.4	14.8

※ 部活動には同好会も含む

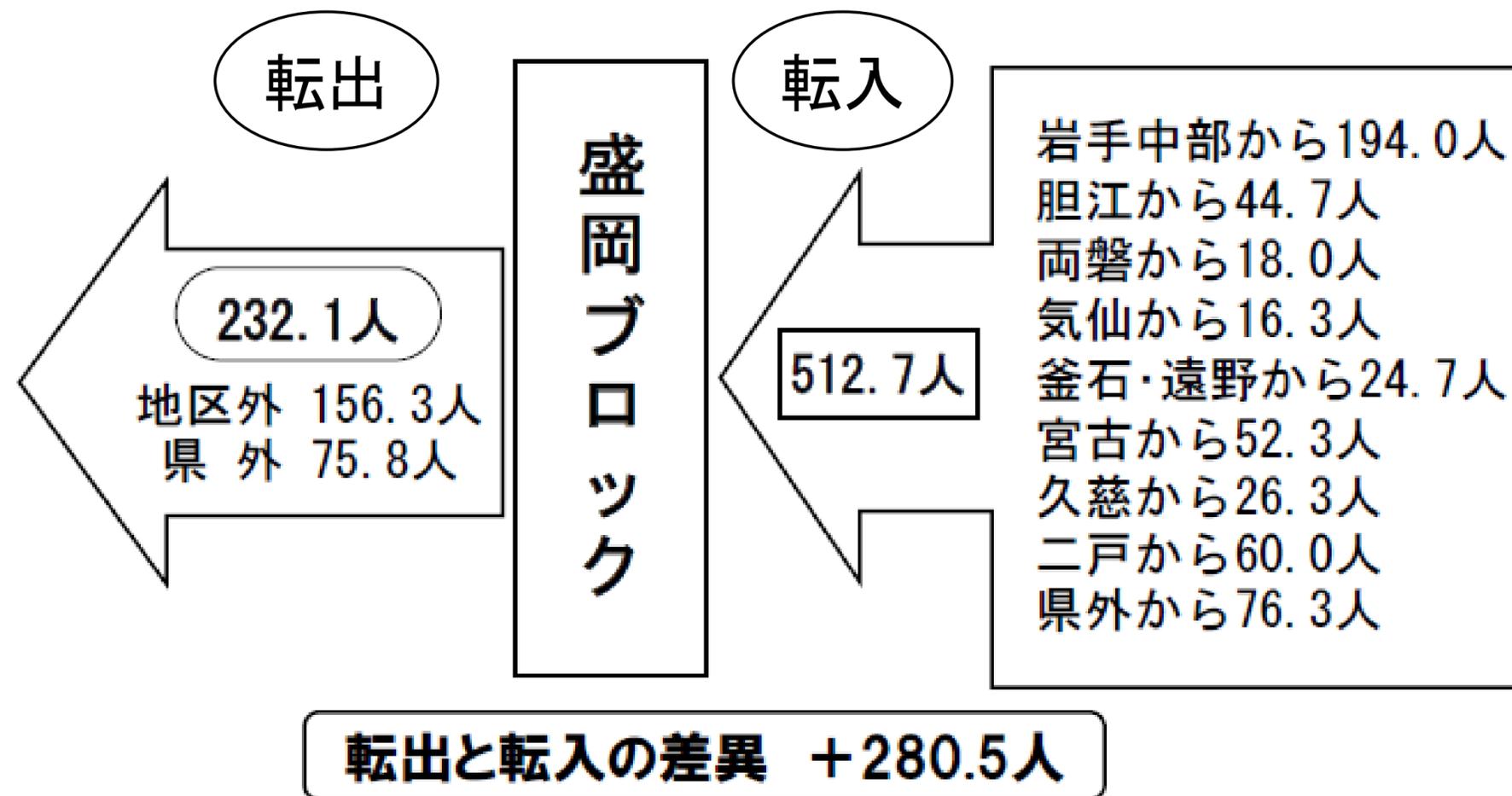
※ 運動部は男子、女子の合計

一定の学校規模があると設置できる部活動の種類が多くなる。

オ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ①

(1) 盛岡ブロックにおける転入・転出の状況 (H30～R2の3カ年平均)

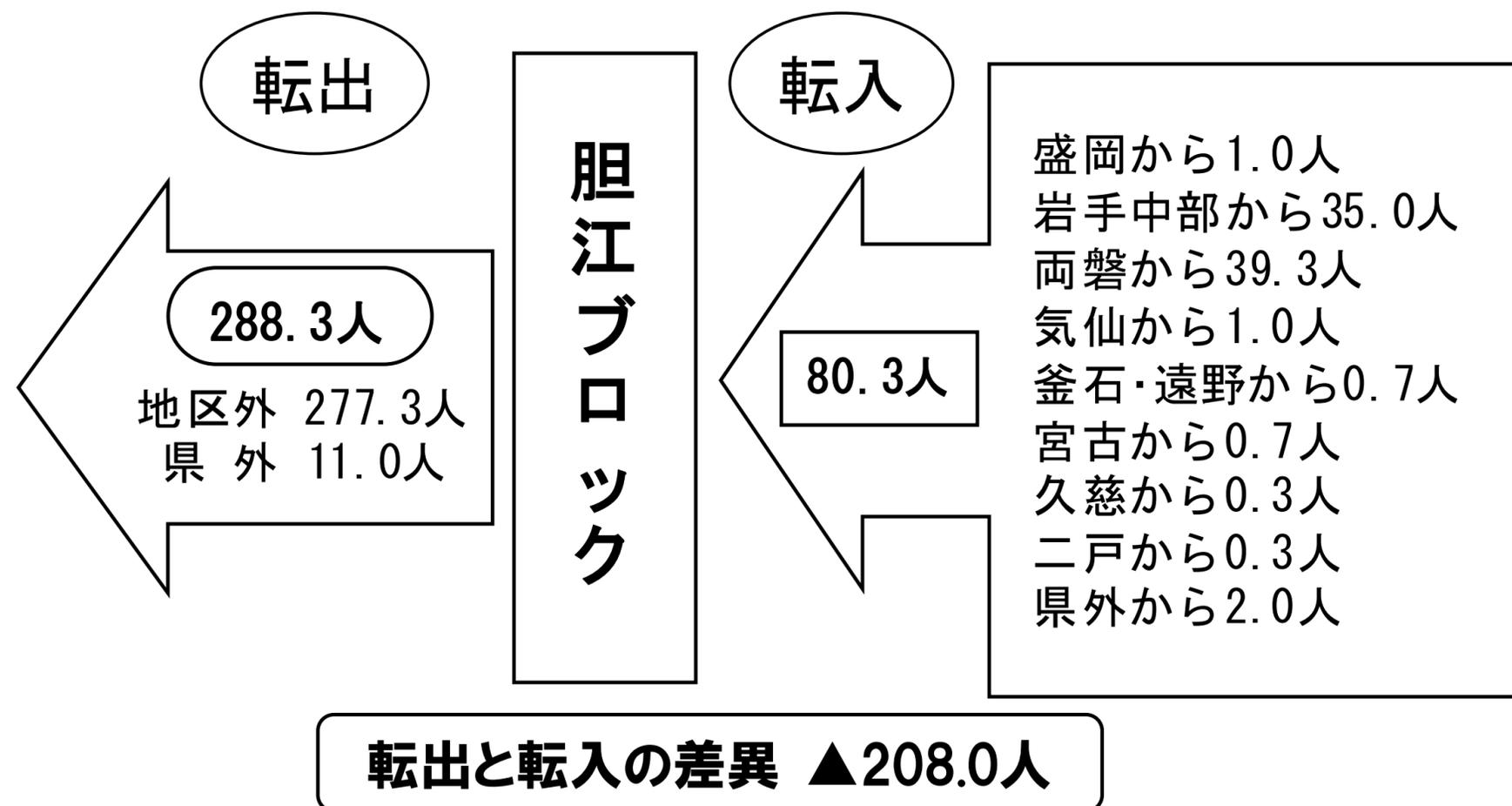
※公立高校の全日制、定時制及び私立高校を対象(過年度卒を含む)



オ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ②

(2) 胆江ブロックにおける転入・転出の状況 (H30～R2の3カ年平均)

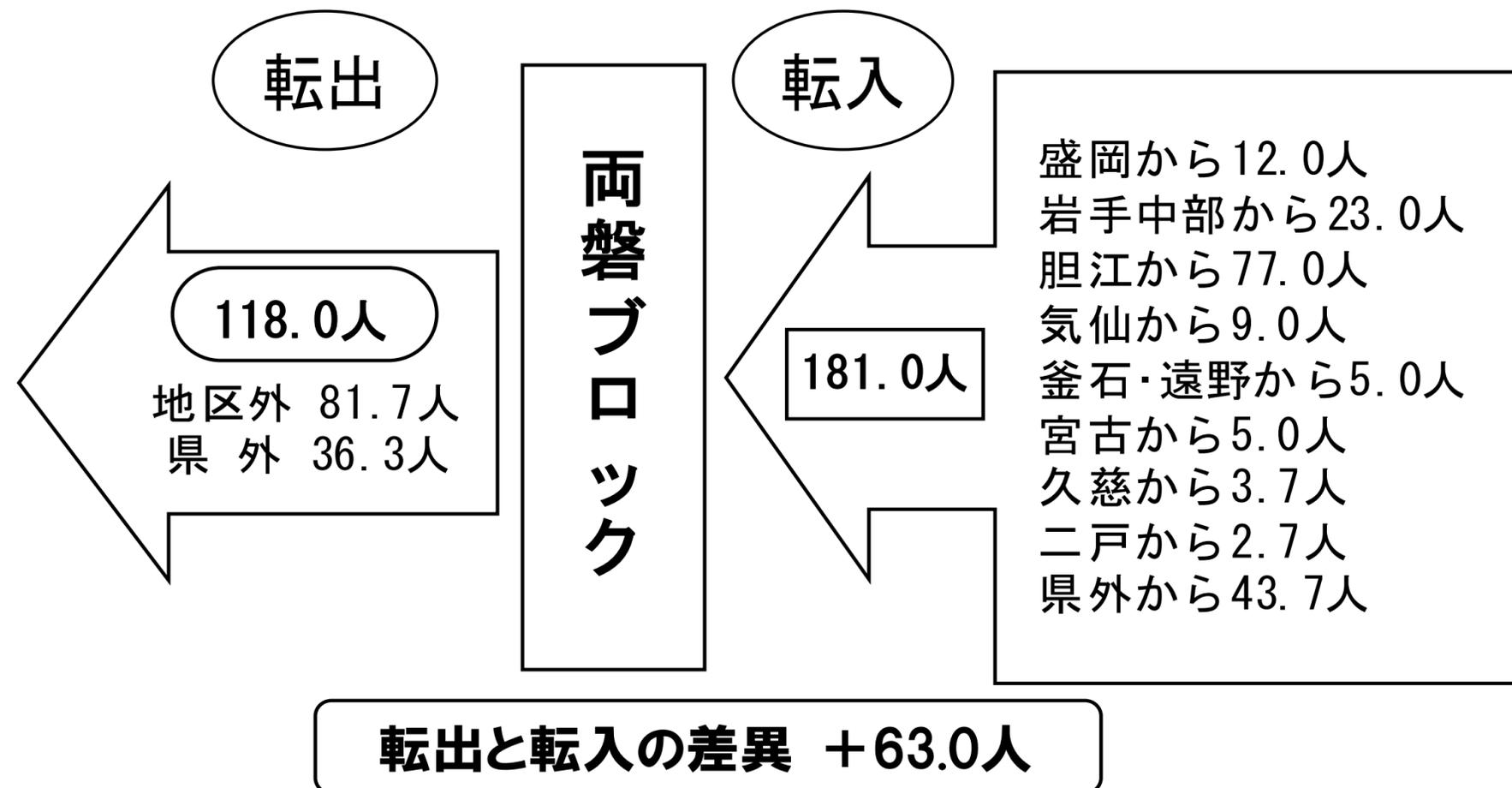
※公立高校の全日制、定時制及び私立高校を対象(過年度卒を含む)



オ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ③

(3) 両磐ブロックにおける転入・転出の状況 (H30～R2の3年平均)

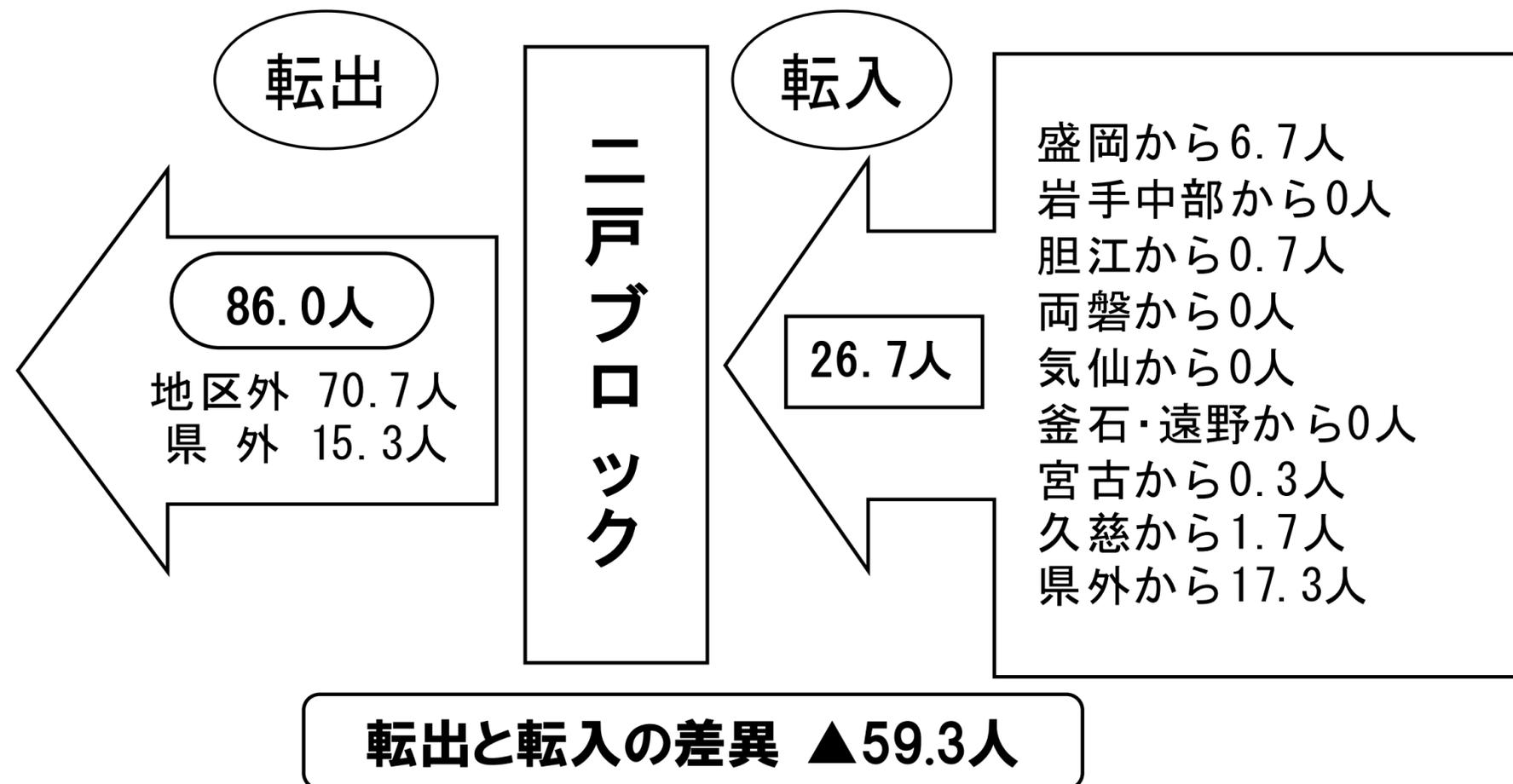
※公立高校の全日制、定時制及び私立高校を対象(過年度卒を含む)



オ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ④

(4) 二戸ブロックにおける転入・転出の状況 (H30～R2の3カ年平均)

※公立高校の全日制、定時制及び私立高校を対象(過年度卒を含む)



オ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ⑤

(5) 盛岡ブロックにおける転入の状況（H30～R2の3カ年平均）

※公立高校の全日制、定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）

学 校	転入者	1校あたり	備 考
盛岡ブロック 公立計	317.3 人		
盛岡中心校	255.4 人	25.5 人	一、二、三、四、北、南、不、農、工、商
盛岡周辺校	37.3 人	7.5 人	沼宮内、葛巻、平舘、雫石、紫波総合
その他	24.6 人	8.2 人	定時制、盛岡市立
盛岡ブロック 私立計	195.3 人		
盛岡ブロック 計	512.7 人		

※ 盛岡中心校 … 盛岡地域の県立高校10校（一、二、三、四、北、南、不、農、工、商）

※ 盛岡周辺校 … 盛岡周辺地域の県立高校5校（沼宮内、葛巻、平舘、雫石、紫波総合）

オ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ⑥

(6) ブロック外から盛岡ブロックへの転入状況(H30～R2累計)

学校	R2	H31	H30	平均	備考
盛岡第一	52人	56人	44人	50.7人	2番目
盛岡第二	4人	1人	10人	5.0人	
盛岡第三	28人	27人	33人	29.3人	
盛岡第四	11人	23人	5人	13.0人	
盛岡北	6人	10人	4人	6.7人	
盛岡南	34人	31人	42人	35.7人	3番目
不来方	62人	65人	76人	67.7人	1番目
計	197人	213人	214人	208.0人	平均:29.7人
盛岡農業	24人	24人	26人	24.7人	
盛岡工業	11人	14人	18人	14.3人	
盛岡商業	14人	5人	6人	8.3人	
計	49人	43人	50人	47.3人	平均:15.8人
合計	246人	256人	264人	255.3人	平均:25.6人

オ 他ブロックや周辺市町村からの流入状況 ⑦

(7) 盛岡ブロック内の周辺市町※からの転入状況(H30～R2累計)

学校	R2	H31	H30	平均	備考
盛岡第一	17人	16人	18人	17.0人	
盛岡第二	20人	13人	24人	19.0人	
盛岡第三	31人	37人	32人	33.3人	
盛岡第四	11人	8人	13人	10.7人	
盛岡北	13人	18人	19人	16.7人	
盛岡南	39人	37人	32人	36.0人	3番目(普通科系2番目)
不来方	43人	44人	45人	44.0人	1番目
計	174人	173人	183人	176.7人	平均:25.2人
盛岡農業	30人	35人	29人	31.3人	
盛岡工業	21人	38人	39人	32.7人	
盛岡商業	41人	35人	43人	39.7人	2番目
計	92人	108人	111人	103.7人	平均:34.6人
合計	266人	281人	294人	280.3人	平均:28.0人

※ 周辺市町 … 八幡平市、雫石町、岩手町、葛巻町、紫波町

カ 学校施設の老朽化

(1) 全県の状況

県立高校の校舎のうち**約6割が築40年以上**（R3.3末）

築50年以上	11校/66校中(16.7%)	} 37校/66校中(56.1%)
築40年以上50年未満	26校/66校中(39.4%)	

県立高校の多くは、昭和40年代から昭和50年代にかけて生徒の増加に対応して整備されたもの。

(2) 各学校の状況（築50年以上）（R3.3末）

学校名	宮古商工 (商業校舎)	水沢商業	福 岡	宮古水産	水沢農業	岩 泉
経過年数	58年	57年	54年	54年	54年	53年
学校名	花巻農業	水沢工業	盛岡工業	久慈長内	軽 米	
経過年数	53年	52年	51年	50年	50年	

キ ICT機器等の整備状況

令和2年度

GIGAスクールで学校のICT機器整備を加速

①全県立学校に無線LAN環境を整備		R1補正予算	全校 1,427,760千円
②県立高校等に大型提示装置を整備		R2当分予算	24校 235,712千円
③県立附属中、特別支援学校小・中学部へ1人1台端末の整備		2号補正予算	1,152台 78,406千円
④Wi-Fi環境等のない家庭用モバイルルータ等の整備			153台 1,530千円
⑤障がいに応じた入出力支援装置等の整備			9,594千円
⑥遠隔学習の実施に向けたWebカメラ等の整備			県立学校各6台 4,764千円
⑦オンライン学習支援サービスの活用		3号補正予算	高校3年生 45,900千円 希望市町村 42,617千円
⑧低所得世帯等への通信費の支援	高校生奨学給付金		上限10,000円(年) 37,390千円
⑨県立高校の貸出用1人1台端末の整備		4号補正予算	4,160台 282,454千円
⑩教育センターの研修用機器整備			29,890千円
⑪県立高校の1人1台端末の整備		7号補正予算	4,320台 266,760千円
⑫産業教育設備整備	デジタル化対応		930,922千円

令和3年度以降に向けた取組の方向性

新しい生活様式の中でのICTを活用した「学びの保障」の充実

ICTを活用した授業改善等の充実 ICTによる効果的・効率的な授業の実践 **継続 R2~R4**

岩大・県大との共同実証研究 **拡充**

- 【研究協力校 小中高7校】 R3予算:44,079千円 (R2:34,044千円)
- ◆大型提示装置等と児童生徒1人1台端末を連動させた授業改善等
 - ◆AIドリル等を活用した個別最適化学習
 - ◆遠隔教育の研究(家庭等とのオンライン学習)
 - ◆GIGAスクールサポーターの配置

探究プログラムの実践

- R3予算:19,993千円 (R2:20,000千円)
- 【岩手県版SSH8校】
- ◆理数教科等での探究的な学習を重点校で実施

学力調査の実施・分析

- R3予算:11,657千円 (R2:14,750千円)
- ◆諸調査のあり方検討を踏まえた学力調査の実施及び分析結果を活用した訪問指導の充実

大学入学者選抜改革

- R3予算:1,917千円 (R2:3,289千円)
- ◆教育情報ネットワークを活用した配信型講座の指導法の研究等

県立学校のICT機器整備

- ◆大型提示装置等の段階的整備 【R3:県立高校13校】 R3予算:66,038千円 (R2:235,712千円)

研究発表会や教員向け研修等による実践内容の横展開の拡充

連動

オンライン学習等の充実

学校と家庭をつなぐオンライン学習、ネットワーク構築による遠隔教育等の充実

1人1台端末等を活用したオンライン学習

- ◆授業動画や課題等の配信
- ◆学習グループウェアの活用



遠隔教育ネットワークの構築 **新規**

- ◆総合教育センターを配信センターとする小規模校等への遠隔教育の推進 【R3:県立高校5校】 R3予算:14,789千円 (国庫10/10)



ク 県立学校へのエアコン、デジタル機器の整備状況

県立高校エアコン整備

国（内閣府）の臨時交付金を活用し、新型コロナウイルス感染症と熱中症への対応のため、全ての県立高等学校の普通教室等へエアコンを整備

R1：当初予算（県単）保健室等	60,390千円
R2：当初予算（県単）14校	46,640千円
R2：9月補正（国庫）13校	1,413,898千円
R2：2月補正（国庫）34校	1,786,102千円
計	3,307,030千円

- ※ 対象校
設置済及び改築・大規模改修を実施する学校を除く
高校60校61校舎
- ※ 臨時交付金の概要
新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（補助率10/10）
新型コロナウイルスの感染拡大を防止するとともに、感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活を支援し地方創生を図るため、本経済対策の全ての事項についての対応として、地方公共団体が地域の実情に応じてきめ細やかに必要な事業を実施できるように創設

- 整備内容
 - ・対象諸室
普通教室、特別教室、職員室、事務室、校長室
 - ・整備スケジュール
両磐・胆江地区14校
設計 令和2年7月～令和3年1月
工事 令和3年4月～令和3年8月（予定）

1学級40人程度在籍する大規模校13校
設計 令和2年10月～令和3年2月
工事 令和3年4月～令和3年8月（予定）

未整備校34校
設計 令和3年3月～令和3年7月
工事 令和3年9月～令和4年2月（予定）

県立中学校・特別支援学校冷房整備

国（文部科学省）の臨時特例交付金を活用し、生徒等の熱中症対策や学力向上に向けた学習環境の改善を図るため、県立中学校及び特別支援の普通教室等へ空調（冷房）設備を整備

H30：2月補正	中学校	30,328千円
	特別支援学校	1,098,529千円
	計	1,128,857千円

- ※ 対象校
一関第一附属中学校1校
特別支援学校13校
（13本校、1分校、1分校舎、8寄宿舍）
- ※ 臨時特例交付金の概要
ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金（補助率1/3）
 - ・対象学校種
公立の小中学校、義務教育学校、特別支援学校
 - ・地方財政措置
起債充当率100%、元利償還金の交付税参入率60%

- 整備内容
 - ・対象諸室
普通教室、特別教室、管理諸室、寄宿舍、分教室
 - ・整備スケジュール
設計 平成31年3月～令和元年7月
工事 令和元年9月～令和2年2月



普通教室



寄宿舍

産業教育設備整備

国（文部科学省）の第3次補正予算（経済対策）による国庫補助事業（学校施設環境改善交付金（補助率1/3）のメニューに追加された「スマート専門高校」の実現（デジタル化対応産業教育装置の整備）事業）を活用し、専門高校においてデジタル化に対応した産業教育設備を整備することにより、地域の産業をけん引する職業人材を育成。

R2：2月補正	930,748千円
---------	-----------

- ※ 対象校
農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報若しくは福祉に関する学科又は総合学科（職業科目を25単位以上開設している場合に限る。）を設置している高等学校

- 整備内容
国庫補助対象設備：施設と一体的に整備するデジタル化に向けた設備
学校から要望があった設備のうち、国庫補助対象となる76設備を県内の専門高校（23校）に整備するもの。

【分野別の主な設備】

分野	設備名	設備の内容
工業	マシニングセンタ	コンピュータ制御式の切削加工工作装置
	NC加工実習システム	金属等の加工部品の設計等を行うシステム
商業	情報コンテンツ実習ネットワーク装置	プログラミング等に対応する高性能パソコン
農業	ミルクプラント	電子制御による生乳の品質管理装置
水産	航海用シミュレータ	模擬操船による操船学習システム
家庭	食物調理台	IHや自動調理機能を有したオープン等を備えた調理台
福祉	多機能付き電動ベッド	介護者の見守りセンサー等ICT機能を備えた電動ベッド



マシニングセンタ



航海用シミュレータ

3 後期計画策定に向けた取組の経緯について

ア 後期計画策定に向けた取組の経緯 ①

○ 後期計画策定に向けた主な取組について（H29年度～R1年度）

H29	<ul style="list-style-type: none">・生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議（H29～H30）
H30	<ul style="list-style-type: none">・中学生の進路希望等に関するアンケート（H30.7～8）・地域検討会議（第1回）（H30.12～H31.2：県内10会場）・いわて県民計画策定（H31.2）・岩手県教育振興計画策定（H31.3）
R1	<ul style="list-style-type: none">・地域検討会議（第2回）（R1.5：県内10会場）・地域検討会議（第3回）（R1.8：県内10会場）・県民との意見交換会（第1回）（R1.8：県内9会場）・要請に応じた説明会（R1.9：県内8会場）・第2期岩手県ふるさと振興総合戦略策定（R2.2）・岩手の高校教育を考える市町村長懇談会 提言書の提出（R2.2）・後期計画（案）の公表（R2.2.6）・パブリック・コメントの実施（R2.2～R2.3）

ア 後期計画策定に向けた取組の経緯 ②

○ 後期計画策定に向けた主な取組について（R2年度）

R2	<ul style="list-style-type: none">・地域検討会議（第4回）（R2.7～9：県内10会場）・県民との意見交換会（第2回）（R2.7～9：県内9会場）・要請に応じた説明会（R2.9：県内1会場）・後期計画（最終案）の公表（R3.2.1）・岩手県教育振興基本対策審議会（R3.2.5）・いわて産業人材育成会議（R3.2.9）・盛岡ブロックの再編計画に関する説明会（R3.2.18）
----	--

地域検討会議や意見交換会、要請に応じた説明会等においては、地域の代表の方々や県民の方々から、計68回、のべ約2,200人に参加いただき意見を伺った。

参考 前期計画策定に向けた取組

H27. 5～11	地域検討会議（第1回～第3回）、意見交換会（第1回～第2回）
H27. 12. 25	前期計画（案）公表
H28. 1～2	地域検討会議（第4回）、地域説明会、パブリックコメント
H28. 3. 29	前期計画 策定

4 地域等から寄せられた意見や提言等について

ア 地域検討会議等の意見 【盛岡ブロック】 ①

(1) 地域検討会議(第1回～第3回)、意見交換会(第1回)の主な意見

【第1回】

- ・ 地域の高校は町づくりに直結する大事な要素であり、高校の存在は町の存続のキーである。
- ・ 都市部、沿岸部、中山間地それぞれの高校には役割がある。多様な生徒への対応や地域産業の担い手育成の視点も大切である。
- ・ 現在のままでは近隣の市町村で生徒の奪い合いになるため、発展的な再編計画としてほしい。

【第2回】

- ・ 盛岡市内の学校を統合しなければ、周辺の小規模校の定員が充足しないのではないか。
- ・ 地方力の向上のために小規模校を大切にす国の認識が高まっており、IoT技術を活用した「教育の質の保証と機会の保障」の両立が重要となる。

【第3回】

- ・ 岩手に必要な人材像や高校教育の将来像を明確にして、学校・学科等を配置する視点が必要である。
- ・ 盛岡市周辺の小規模校の活力向上には、盛岡一極集中を是正する必要があり、盛岡地区の統合を行うべきである。
- ・ 人口減少期においては、新たに設置してきた学校から見直すなど、県立高校の設置の歴史を踏まえた再編を行うべきである。

ア 地域検討会議等の意見 【盛岡ブロック】 ②

(2) 地域検討会議(第4回)、意見交換会(第2回)の主な意見

[特徴等]

- ・ 地域検討会議においては、統合について計画案の通り進めるべきとの意見が多数であり、反対意見は一部であった。
- ・ 盛岡市内の統合案を示したことについて、画期的な判断と評価する声も複数ある。
- ・ 後期計画策定後、中学生や保護者に混乱が生じないように、統合に向けた検討内容等について情報提供を求める意見が多数出されている。

[主な意見]

賛成	反対(統合案に疑問も含む)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方の学校から規模を縮小しており、盛岡一極集中を是正するために、盛岡ブロックの大規模校を統合する後期計画には賛同する。 ・ 盛岡市周辺の小規模校の入学者の確保に繋がることが期待できることから賛同する。 ・ 県全体の課題である盛岡地区への志願者の集中に対応した計画であり支持したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 矢巾町の今後の中学校卒業者の推移は大きく減少しない。統合により、中学生の選択肢が狭まること等から反対である。

イ 地域検討会議等の意見 【胆江ブロック】 ①

(1) 地域検討会議(第1回～第3回)、意見交換会(第1回)の主な意見

【第1回】

- ・ 小規模でも地域には学校が必要である。学級減はやむを得ないが、学校の統合は最低限に止め、地域の学校を残していく方策を考えるべきである。
- ・ 本県はものづくり先進県として職業人の育成に力を入れており工業系の学校は維持しなければならない。
- ・ 広大な面積を有する本県は、独自の考え方による地域別の再編計画が必要である。地域ごとに望ましい学校規模の基準を設けるべきである。

【第2回】

- ・ 地理的・経済的制約がある生徒でも希望する進路を実現できるよう、教育の機会の保障を重視するべきである。

【第3回】

- ・ 少子化により学級減は仕方がないが、統合せずに済む方法を検討する必要がある。
- ・ ブロック内の7校中6校が定員を満たしていない状況であり、学級減を進めるべきである。生徒間の競争率の低下は学力の低下となる。
- ・ 専門高校は学科数が少ないと学校の活力が失われる。学ぶ内容の異なる学科間の競争が必要であり、3学級は必要である。

イ 地域検討会議等の意見 【胆江ブロック】 ②

(2) 地域検討会議(第4回)、意見交換会(第2回)の主な意見

[特徴等]

統合案に反対する意見が多数であり、賛成意見は一部であった。(水沢工業高校の定員充足率が高いこと等から統合は時期尚早、通学時間が長くなること等による生徒・保護者の負担増の可能性、教育内容の充実で統合の目指す効果は得られる など)

[主な意見]

賛成	反対(統合案に疑問も含む)
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交通機関や産業集積の状況を考えれば、胆江地区と北上地区の統合を検討しても良いのではないか。 ▪ 統合により学校規模が大きくなることで、部活動や学校行事において学校の活性化が図られる。適正な学校規模による充実した工業教育の環境を整えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 広大な圏域に及ぶと通学距離が遠くなり、生徒や家庭の負担の増加により、多様な進学機会を妨げることが懸念される。 ▪ 現状の工業高校を存続させたまま、学びの内容を充実させることで、目指す効果は得られるのではないか。 ▪ 県南地域の統合には疑問があるため、後期計画期間後に向けて、改めて検討することで良いのではないか。

ウ 地域検討会議等の意見 【両磐ブロック】 ①

(1) 地域検討会議(第1回～第3回)、意見交換会(第1回)の主な意見

【第1回】

- ・ 人口減少の状況や県の産業振興の方向性等の意見を十分に聞きながら、県全体の状況を把握した上で検討を進めてほしい。
- ・ 高校を統合する場合には、教育の機会の保障の観点から、通学支援等も行わなければならない。

【第2回】

- ・ 農業、工業については特色ある学科を増やすなど、産業人材の育成の在り方について方向性を示すべきである。
- ・ 生徒数の減少が続くことから高校再編は避けられず、計画通りに進めるべきである。
- ・ 全国的にICTを活用した遠隔授業への取組が推進されており、このような取組は、中山間地等に設置された小規模校で学ぶ生徒の学力を保証するために有効である。

【第3回】

- ・ 就職希望の生徒には地元への就職を勧め、地元定着を促進する必要がある。地元の産業人材の育成の視点を重視してほしい。
- ・ 地域の学校が無くなることは重大なことである。小規模校を残す工夫については、継続して行ってほしい。
- ・ 産業界の立場から見ても、AIやIoT等の活用は避けて通れない状況にあり、今後、AIやIoT等の知識を持った人材が必要になるものと思われる。これらを学べる学科等を設置することも考えるべきではないか。

ウ 地域検討会議等の意見 【両磐ブロック】 ②

(2) 地域検討会議(第4回)、意見交換会(第2回)の主な意見

[特徴等]

統合案に反対する意見が多数であり、賛成意見は一部であった。(通学が困難となる生徒が出る可能性、通学時間が長くなること等による生徒・保護者の負担増の可能性、ブロック内に工業の学びがあることの必要性、費用対効果 など)

[主な意見]

賛成	反対(統合案に疑問も含む)
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 一定の規模や充実した設備のもとで、より高度な技術を学ぶことは重要であり、今回の統合案はやむを得ない。時代に一致する統合である。 ▪ 生徒数の減少もあり、統合はやむを得ない。ブロックを越えるため、通学への支援や寮などの整備も必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ブロックを越える統合は、生徒の通学環境に影響が生じるため、今回の統合案は無理がある。 ▪ ブロックを越えた統合により、ブロック内で工業の学びの選択ができなくなる可能性がある。 ▪ 新設校に予算をかけるより、現在の学校に最新の設備を導入し、教育の内容を充実させるべきではないか。

エ 地域検討会議等の意見 【宮古ブロック】 ①

(1) 地域検討会議(第1回～第3回)、意見交換会(第1回)の主な意見

【第1回】

- ・ 後期計画の策定に向けた検討に当たっては、地域で学ぶ教育環境をしっかりと守るという再編計画の基本的なスタンスを変えない姿勢であることを望む。
- ・ 宮古地区にとって水産、工業、商業に関する専門学科は必要であり、存続させながら、今後の専門教育の在り方について考えてほしい。

【第2回】

- ・ 学校の魅力化に向けて教育活動の多様化を図るためには、一定規模が必要であるが、きめ細かな教育を受けられる小規模校のメリットも尊重し、近隣校との柔軟な連携等により解決を図るべきである。

【第3回】

- ・ 後期計画後も現状を維持していくことは難しいことは明らかであり、宮古地区の高校の在り方を広域な視点に立って考えていく必要がある。
- ・ これからの宮古地区の高校教育を考えた場合に、産業教育の在り方については、一番に考えなければならないことであり、商業、工業、水産を合わせて考えていく必要がある。
- ・ 来年4月統合予定の宮古商工高校と宮古水産高校を新校舎建設のもとで統合し、沿岸地区の産業教育の拠点校としていくべきである。

エ 地域検討会議等の意見 【宮古ブロック】 ②

(2) 地域検討会議(第4回)、意見交換会(第2回)の主な意見

[特徴等]

- ・ 首長、漁業関係者からは宮古水産高校の存続を望む意見が出されている。(水産高校の中心校は単独で存続させるべき、高田高校・久慈東高校における水産の学びを宮古水産高校に集約する方がよいなど)

[主な意見]

賛成	反対(統合案に疑問も含む)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産についての専門的な学びは、これまで同様に維持されることから、統合した結果、地域の水産業が衰退することには繋がらず、現実論として、今後の学校教育において、農業、工業、商業、水産を含めた6次産業化がより具現化されていくこととなり、地域には、そのような学習を推進することができる教育環境を提供していく役目があるものと認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合により、水産業を担う水産高校をなくすことは、県の施策に相反するのではないかと。水産高校を単独で維持しなければ、漁業関係者が減少している三陸沿岸地域の水産業は、さらなる衰退を招くこととなる。 ・ 近年は漁業関係者が減少しており、担い手を育成する宮古水産高校は、地域にとって最後の砦である。統合となると水産業の担い手の育成が一層難しくなり、水産業界のよりどころがなくなるのではないかと。

エ 地域検討会議等の意見 【二戸ブロック】 ①

(1) 地域検討会議(第1回～第3回)、意見交換会(第1回)の主な意見

【第1回】

- ・ 人口減少が著しいことから学校の統合は避けられないが、「地域の将来を担う人材育成」を進める地域の取組や特殊事情等を考慮してほしい。
- ・ 学級減や統合の議論はやむを得ないが、中学校卒業予定者数だけでなく、地域を担う人材の育成等、様々な観点から検討を行ってほしい。
- ・ 地域の中で小規模校が存続でき、かつ、生徒が満足した高校生活を送れるような環境整備の検討を進めてほしい。

【第2回】

- ・ 県北部では、県北振興の施策を掲げて地方創生に取り組んでおり、地域と一体的なまちづくりの観点から検討する必要がある。

【第3回】

- ・ 統合により通学が困難となる生徒が生じる可能性がある。通学手段を確保し、経済的な負担や不公平がないよう配慮するべきである。
- ・ 様々な形での統合を視野に入れ、校舎制で地域に学校を残す方策を検討してほしい。
- ・ 地域の将来を担う人材育成の観点から、学校はある程度の集約が必要である。通学可能な範囲を考慮すると、校舎制の検討も視野に入れる必要がある。

エ 地域検討会議等の意見 【二戸ブロック】 ②

(2) 地域検討会議(第4回)、意見交換会(第2回)の主な意見

[特徴等]

- ・ 地域検討会議においては、統合案に反対する意見は一部であった。(校舎改修中に統合案を示すことに対する疑問など)
- ・ 統合案以外の、地域における学校の重要性、教育内容の充実等に関する意見が多数出されている。

[主な意見]

賛成	反対(統合案に疑問も含む)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の生徒数が減少している現状から、高校再編はやむを得ないが、検討に当たっては地域の実態等を考慮してほしい。 ・ 福岡工業高校と一戸高校は素晴らしい特色を持つ学校である。統合に当たっては、これまでの両校のレベルを落とすことなく、生徒が入学したいと考える学校づくりを目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡工業高校の校舎改築が進められているなか、唐突であると感じている。学校の存続に向けては、二戸地区の議長連名による要望書が5月に提出されたところである。 ・ 二戸ブロックから他地区の高校に流出する生徒が多いが、2校の統合により、生徒の流出に歯止めをかけることができるかは疑問である。

オ 「岩手の高校教育を考える市町村長懇談会」からの提言

「岩手の高校教育を考える市町村長懇談会」からの提言（令和2年2月5日）

- ・ 懇談会は、県内33市町村長を会員としている。（代表世話人は遠野市長）
- ・ 提言は、県内33市町村長の連名で、R2.2.5 に知事へ提出された。
- ・ 提言は4項目からなる。

提言 I

『中山間地・沿岸部における小規模校の存続に関すること』

特に中山間地及び沿岸部における小規模校にあっては、地方創生総合戦略を踏まえた、将来の地域経営人財の育成の場としてICT技術等を積極的に活用するなどの環境整備を進め、都市部と中山間地及び沿岸部の高校配置が不均衡な状況にならないよう、存続に向けた見直しを図るよう提言する。

カ 盛岡ブロックの統合案に対する要望書・意見書等について

■ 盛岡市からの要望書①～④（令和2年10月2日、10月29日、12月2日、令和3年3月3日）

- [主な内容]
- ・必要な学びや学科の早期の明示
 - ・統合手順や新設校の十分な説明
 - ・様々な意見を考慮した統合の慎重な判断

■ 盛岡市議会からの意見書（令和2年12月22日）

- [主な内容]
- ・盛岡地区の統合計画の白紙撤回

■ 盛岡南高校の存続を願う会からの嘆願書（令和2年11月13日）

- [主な内容]
- ・盛岡地区の統合計画の白紙撤回
 - ・署名 計15,766筆（R3.2.27時点）

キ 県南地域の統合案に対する要望書等について

■ 一関商工会議所からの要望書（令和2年7月29日）

[主な内容] ・産業経済人材確保のための地元高校の存続

■ 岩手県建設業協会一関、千厩支部からの要望書（令和2年7月29日）

[主な内容] ・建設業人材への影響による地元高校の存続

■ 工業高校統合の再考を要望する会からの要請書（令和3年3月12日）

[主な内容] ・住民への説明会の開催

■ 水沢工業高校同窓会等(9団体)からの要望書（令和3年3月15日）

[主な内容] ・胆江ブロックへの工業高校の存続、学校関係者等への説明

■ 要望への対応を求める奥州市長からの文書（令和3年3月15日）

[主な内容] ・水沢工業高校同窓会等(9団体)の要望への対応を求める

ク 宮古ブロックの統合案に対する要望書について

■ 岩手県漁業団体等からの要望書（令和2年3月19日）

- [主な内容]
- ・県内唯一の水産高校の存続
 - ・本県水産関係学科の集約

■ 宮古水産高校同窓会からの要望書（令和2年3月19日）

- [主な内容]
- ・宮古水産高校の単独校での存続

■ 宮古水産高校存続、養殖科新設協議会からの要望書（令和2年12月14日）

- [主な内容]
- ・宮古水産高校の単独校での存続及び養殖科の設置
 - ・宮古水産高校及び宮古商工高校の共有校舎の一体新築整備

■ 宮古地区広域市町村議会連携会議からの要望書（令和3年1月25日）

- [主な内容]
- ・宮古水産高校の単独校での存続及び養殖科の設置
 - ・宮古水産高校の校舎新築整備

ケ ニ戸ブロックの統合案に対する要望書・意見書について

■ カシオペア連邦議会議員協議会からの要望書（令和2年5月20日）

- [主な内容]
- ・教育の機会確保のため、現在の設置校の維持
 - ・専門高校、総合学科の学科、系列の維持

■ 福岡工業高校同窓会等(6団体)からの要望書（令和2年12月22日）

- [主な内容]
- ・福岡工業高校の単独校での存続
 - ・工業2学科の維持

■ 二戸市議会からの意見書（令和3年3月15日）

- [主な内容]
- ・福岡工業高校の単独校での存続

■ 福岡工業高等学校を守る会からの要望書（令和3年3月24日）

- [主な内容]
- ・福岡工業高校の単独校での存続
 - ・工業2学科の維持

5 原案から最終案への検討の内容について

ア 盛岡ブロックの再編計画に関する検討の内容

【原案についての検討】

- 統合に伴う募集定員減により、**中学生の進路選択に大きな影響を及ぼす懸念の声**等を考慮
- 産業教育の一層の充実や**統合に関わる施設等の有効活用についての意見**を踏まえ、対応を検討

【最終案への反映状況】

- **統合に至るまでの学級減の方法について見直し**、中学生の進路の確保に配慮するとともに、統合まで両校の活発な学校活動の維持を図る。
- **盛岡工業高校について、盛岡南高校の統合後における校舎及び施設等を活用した教育環境を整備**

イ 県南地域の再編計画に関する検討の内容

【原案についての検討】

通学が広範囲となることを懸念する地域からの意見を踏まえ、東磐井地区の生徒の通学圏内に工業の学びを残しつつ、**県南地域の工業教育の基幹となる学校を整備することについて検討**

【最終案への反映状況】

- 千厩高校産業技術科(工業科1学級)は**現状を維持**
- 水沢工業高校と一関工業高校の統合により、**多様な工業の学びを揃えた工業高校(1学年6学科6学級)を設置**

ウ 宮古ブロックの再編計画に関する検討の内容

【原案についての検討】

県唯一の水産高校の存続を求める地域からの意見を踏まえるとともに、宮古商工高校と宮古水産高校の校舎の老朽化への対応について検討

【最終案への反映状況】

- 宮古商工高校と宮古水産高校をそれぞれ単独で維持する。
(水産教育のセンタースクールとして宮古水産高校を維持)
- 同一校地内に両校の新校舎や施設設備等を一体的に整備し、両校の連携を通じた専門教育の充実や学校活動の活性化を図る。

エ ニ戸ブロックの再編計画に関する検討の内容

【原案についての検討】

地域の実態等を考慮し、教育内容の充実等を求める意見を踏まえ、ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科等を維持し、地域の専門教育を担う学校の整備について検討

【最終案への反映状況】

- ・ 地域における多様な学びを確保するため、校舎制の導入により福岡工業高校の校舎を有効利用しながら、現行の「機械」と「電気」等の学びを維持する。
- ・ 地域産業と連携した学びも取り入れながら、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる魅力ある学校の整備を図る。

6 盛岡南・不来方 統合新設校の姿について

ア 盛岡ブロックの現状と課題

- ① 盛岡ブロック内中学校卒業生数の大幅な減少
- ② 盛岡中心校^{※1}においても志願者数の減少

→ **定員の適正化**を図る必要がある。

- ③ 県内各ブロックから、盛岡ブロックへ流入する中学生が過大
- ④ 盛岡ブロック内において盛岡周辺校^{※2}所在市町から盛岡中心校への進学

→ **盛岡への一極集中の解消**を図る必要がある。

- ⑤ これまでの学級減により1校当たりの学級数の減少

→ 一定の**学校規模を確保し、多様な進路希望への対応**や、希望する部活動等の学校活動へ対応できる教育環境の整備を図る必要がある。

※1 盛岡中心校 … 盛岡地域の県立高校10校（一、二、三、四、北、南、不、農、工、商）

※2 盛岡周辺校 … 盛岡周辺地域の県立高校5校（沼宮内、葛巻、平舘、雫石、紫波総合）

【補足】 盛岡ブロックの状況 ①

(1) 盛岡ブロックと盛岡市(旧都南村含む)の中学校卒業生数の推移

(R2までは実数。R7以降は推計値) (上段:人, 下段:%)

地区等	H1※	H12	H22	R2	R7	R12	R16
盛岡ブロック	7,312	6,310	4,951	4,176	3,986	3,462	3,178
H1比	100.0	86.3	67.7	57.1	54.5	47.3	43.5
うち 盛岡市	4,724	3,844	2,976	2,626	2,512	2,168	2,071
H1比	100.0	81.4	63.0	55.6	53.2	45.9	43.8

※ 中学校卒業生数がピークとなった年度

平成元年の中学校卒業生数を100%として比較すると、

令和2年 ⇒ 盛岡ブロック 約57% (▲43%) 盛岡市 約56% (▲44%)

令和16年 ⇒ 盛岡ブロック、盛岡市ともに 約44% (▲56%)

【補足】 盛岡ブロックの状況 ②

(2) 募集定員、入試倍率等の推移

学 校	H1			H12			H22			R3		
	学級数	定員	倍率									
盛岡中心校	81	3,555	1.44	82	3,280	1.32	66	2,640	1.22	61	2,440	1.04
盛岡周辺校	27	1,210	1.07	26	1,040	0.79	14	560	0.92	11	440	0.56
合計	108	4,765	1.34	108	4,320	1.18	80	3,200	1.17	72	2,880	0.97

※ 盛岡中心校 … 盛岡一，盛岡二，盛岡三，盛岡四，盛岡北，盛岡南，不来方，盛岡農，盛岡工，盛岡商 の県立10校
 盛岡周辺校 … 沼宮内，葛巻，平舘，雫石，紫波総合 の県立5校

中学校卒業生数の減少に応じて学級減等を実施してきたものの、
盛岡中心校においても入試倍率は低下している。

【補足】 盛岡ブロックの状況 ③

(3) 盛岡ブロックにおける1校当たり募集学級数の推移

区分	H1	H12	H22	R2
盛岡中心校	8.1	8.2	6.6	6.1
盛岡周辺校	5.4	5.2	2.8	2.2
盛岡ブロック全体	7.2	7.2	5.3	4.8

中学校卒業生数の減少に対応するために実施してきた**学級減等**により、**盛岡中心校においても1校当たりの学級数が減少**している。

【補足】 盛岡ブロックの状況 ④

(4) 盛岡ブロックにおける専門学科の募集学級数の推移

※ 表中のマル囲み数字は学級数を表す

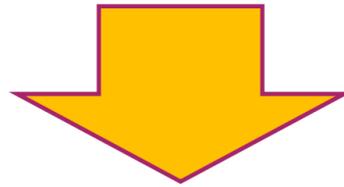
学校名	学級数	H11	H16	R2
盛岡農	⑦→⑤	農業, 林業, 園芸, 畜産, 生物工学, 農芸化学, 生活科学	生産科学, 農業活用, 森林科学, 生物工学, 食品科学, 生活科学	植物科学, 環境科学, 動物科学, 食品科学, 人間科学
盛岡工	⑨→⑦	機械, 電気, 電子, 電子機械, 情報技術, 工業化学, 土木, 建築, デザイン	機械, 電気, 電子機械, 電子情報, 工業化学, 土木, 建築, デザイン	機械, 電気, 電子機械, 電子情報, 工業化学, 土木, 建築・デザイン
盛岡商	⑨→⑥	商業②, 会計②, 事務②, 情報処理②, 国際経済	流通ビジネス②, 国際ビジネス, 会計ビジネス②, 情報ビジネス②	流通ビジネス②, 会計ビジネス②, 情報ビジネス②
沼宮内	⑥→②	普通⑤, 家政科学	普通③	普通②
平 舘	⑥→②	普通⑤, 家政科学	普通②, 家政科学	普通①, 家政科学
雫 石	⑥→①	普通⑤, 国際教養	普通③	普通①
紫波総合	⑦→④	普通⑤, 農業, 情報デザイン	総合⑥ (総合学科高校に再編)	総合④

専門的な学びの多様性を維持するためには、これ以上の学級減は困難

イ 盛岡ブロックにおける高校再編について

盛岡ブロックにおける高校再編の方針

- 生徒の教育環境の確保のため、**学級減によらない再編を行う。**
- 盛岡への一極集中に対応するため、**盛岡中心校の統合を行う。**
- **発展的な統合を行い、特色ある教育を先導的に実践する大規模校を設置する。**
- 普通科系高校の**配置バランス**を確保する。（現行：北部2校、中央部2校、南部3校）



体育の学びに特色のある**盛岡南高校**と、芸術・体育等の学びに特色のある**不来方高校**を**発展的に統合し**、さらなる高みを目指した教育を**実践する大規模校**を設置する。

ウ 盛岡南高校と不来方高校における統合の概要 ①

統合新設校

本県の様々な分野の振興に資する人材の育成を果たす学校へ

学校統合の内容

盛岡南高校

定員 240名 (6学級)
普通科 5学級 (含 体育コース1)
体育科 1学級

体育、芸術等の特色ある教育 を实践する2校の発展的統合

- ・ 多様な価値観に触れながら切磋琢磨
- ・ スケールメリットを生かした、より一層の活性化

不来方高校

定員 280名 (7学級)
普通科 (総合選択制) 7学級
5学系 (人、理、芸、外、体)

盛岡ブロックにおける特色ある学習活動等に取り組む大規模校の設置 (令和7年度)
定員320人 (8学級) 県内最大規模

ウ 盛岡南高校と不来方高校における統合の概要 ②

統合新設校についての構想

- ① 盛岡南高校と不来方高校の統合により、新たな高校をR7に設置
(統合に伴い両校を閉校し、統合新設校が開校する。)
- ② 盛岡南高校と不来方高校の特色ある教育活動を継承したうえで、1学年8学級のスケールメリットを生かし、さらに発展させる教育活動を実践
- ③ 設置する学科は「普通科」または「普通科と体育科」とし、学びの分野(「学系」と呼ぶ。)の枠をこえた多様な科目選択に対応できる「総合選択制」を導入
- ④ 学系は、「人文」、「理数」、「芸術」、「外国語」、「体育」の各分野として設定
(「体育」は、「学科」もあり得る。)
- ⑤ 校舎等は、現在の不来方高校の校舎等を使用
- ⑥ 県内最大の学校規模を確保することによる学校活動や部活動の活性化
→ 両校が蓄積してきたこれまでの実績や伝統の継承と発展

ウ 盛岡南高校と不来方高校における統合の概要 ③

統合新設校についての今後の検討事項

- ① 校名、校歌、校訓、制服、校章
- ② 体育の学びに関する構成(学系のみor学科と学系)
- ③ 教育課程、単位制の導入等に関すること
- ④ 部活動に関すること
- ⑤ 教育活動の詳細に関すること(学校行事、生徒会 等)
- ⑥ PTAや同窓会等の組織に関すること 等

両校の関係者(校長等、PTAや同窓会の代表者)、盛岡市や矢巾町の教育委員会の代表者、地域の中学校の代表者等で構成される**統合検討委員会**を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討

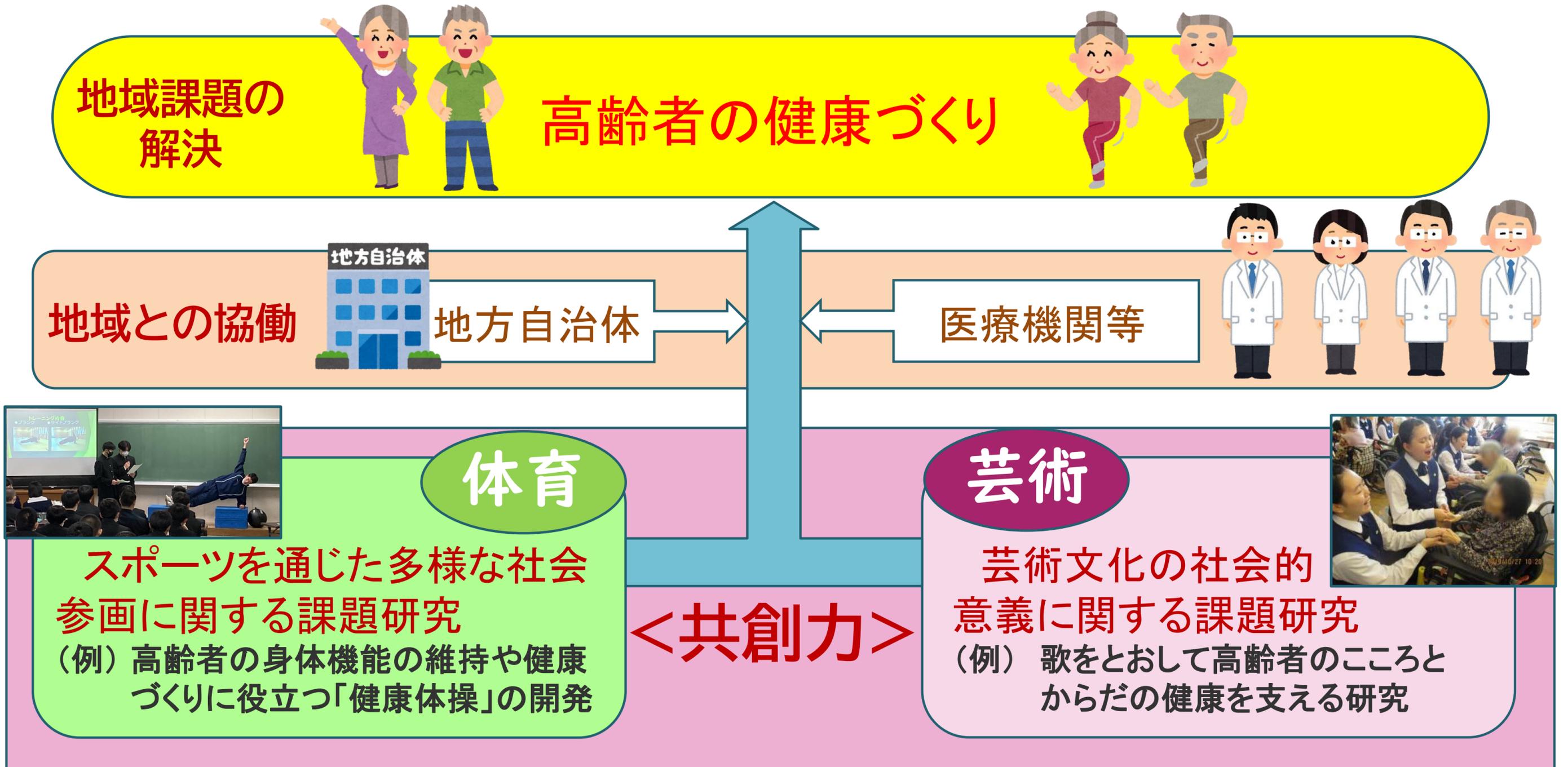
エ 新たな学校で期待できる取組 ①



それぞれの学びに留まらず、特色ある学びを横断して探究活動を展開することによって学びが深化し、地域課題の解決に向けた実践を通じて学ぶ意義を実感できる。

エ 新たな学校で期待できる取組 ②

イメージ



7 盛岡工業高校の移転・整備について

ア 盛岡工業高校の現状 ①

(1) 沿革

- 明治31年 岩手実業学校設立認可
- 昭和28年 岩手県立盛岡工業高等学校と改称
- 昭和45年 現在地へ移転

(2) 生徒数及び施設の状況等 (R2年度)

- ① 778人(全日制:752人、定時制:26人)
- ② 設置学科等

【全日制】(7学科7学級)280人	【定時制】(1学科1学級)40人
機械科、電子機械科、電気科、電子情報科、土木科、工業化学科、建築・デザイン科	工業科

③ 建築年数(主な施設) (R3.3末)

	管理棟	普通・特別教室棟	機械実習棟	電気実習棟	土木・建築実習棟
建築年度	昭和45年度	昭和45年度	平成3年度	昭和45年度	昭和45年度
建築年数	51年	51年	30年	51年	51年

ア 盛岡工業高校の現状 ②

(3) 課題

① 校舎等の老朽化

- ・ 建築後50年を経過している施設が多数
- ・ 建て替えまたは大規模修繕が必要

【老朽化の一例】

雨漏り、コンクリートの剥離(外壁等)、油送配管等の劣化(暖房等に影響)等

② 生徒の負担が大きい通学環境

- ・ 最寄り駅、市内中心部から遠距離にあるため、通学に負担
- ・ 冬期間の道路状況の悪化等により、通学に不便を感じている生徒、保護者が多数

岩手飯岡駅から盛岡工業高校 4.4km(自転車20分、徒歩55分、バス20分)

岩手飯岡駅から盛岡南高校 1.8km(自転車8分、徒歩20分)

イ 盛岡南高校校舎等の活用によって期待できる効果 ①

(1) 通学に係る生徒負担の軽減（通学環境の改善）

→ 工業学科を志す生徒の増加に期待

(2) 最新設備・機器を使用した工業実習

→ 時代に対応した工業教育の実践が可能

(3) 時代に対応した学び（工業教育の充実）

→ ITやIoT、AI等、これからの技術革新に対応した学びも検討

【参考】最新設備・機器を使用した工業実習や時代に対応した学び

イメージ

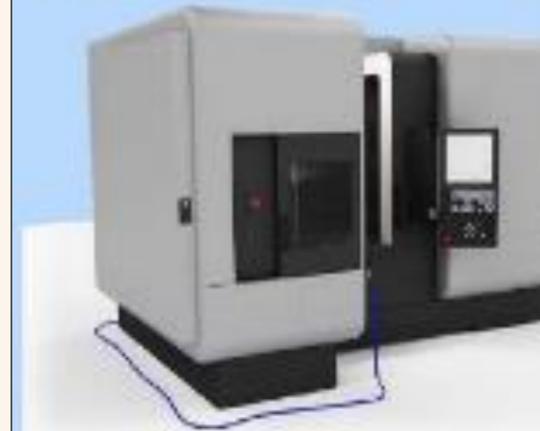
最新設備・機器を使用した実習

- 高性能PC端末を配備した実習室の整備
- ・装置の制御、画像の分析等多様な用途に活用



■ マシニングセンター

- ・自動工具交換機能を有した多種類の加工を連続で行えるNC(数値制御)工作装置



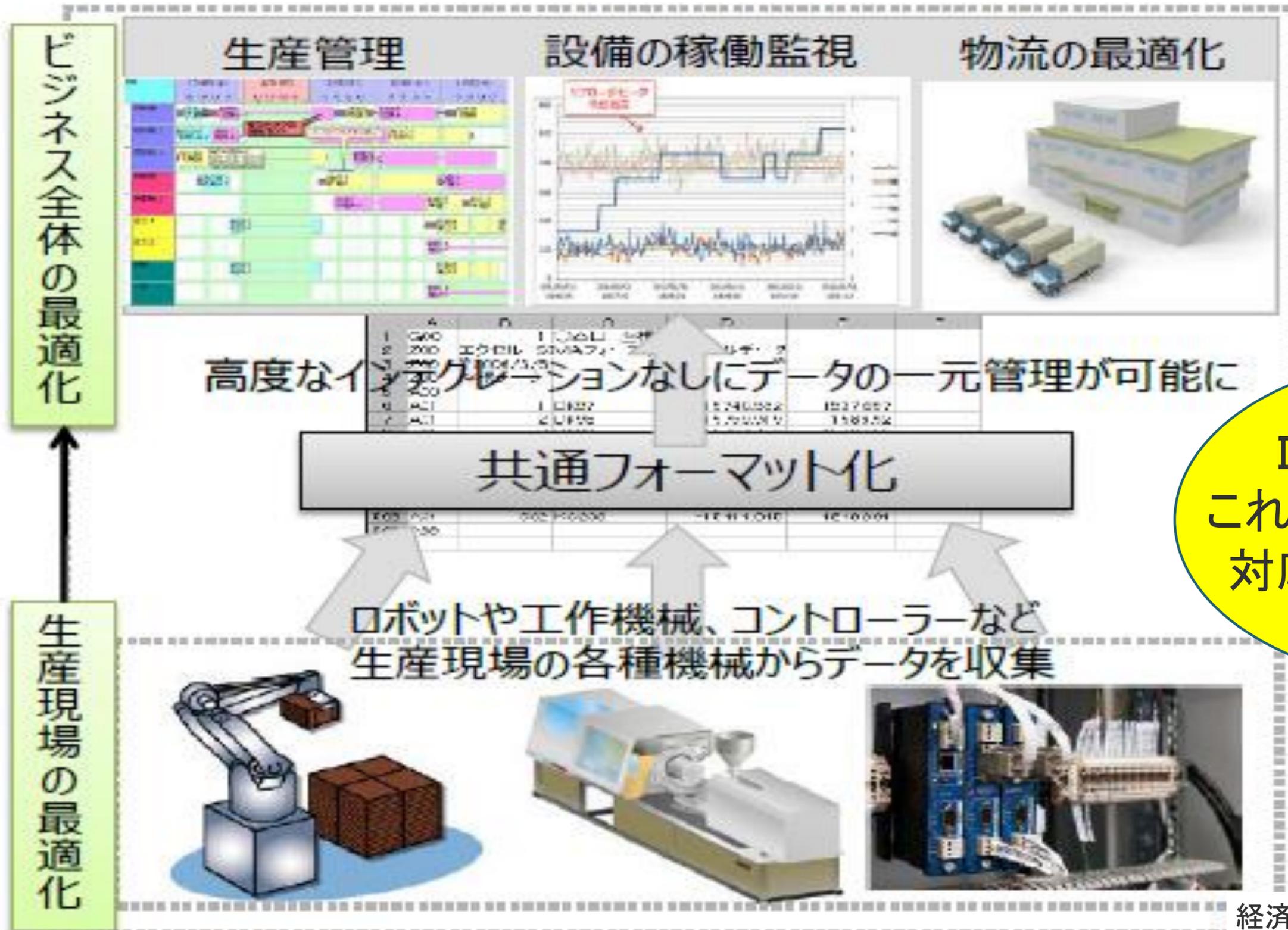
■ 金属造形3Dプリンタ

- ・コンピュータで入力された数値をもとに、金属等の加工品を作成する産業用装置



【参考】最新設備・機器を使用した工業実習や時代に対応した学び

イメージ

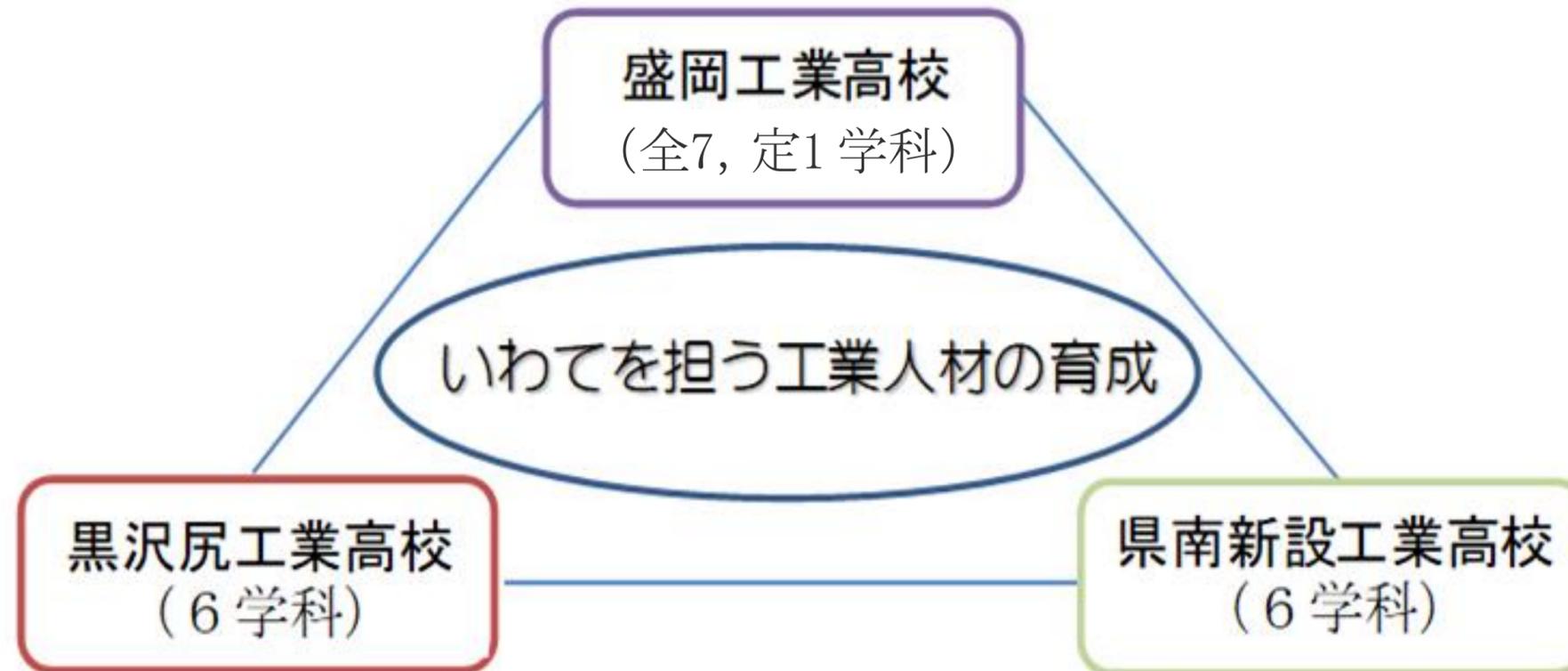


ITやIoT、AI等、
これからの技術革新に
対応した学びの検討

経済産業省公表資料より抜粋

イ 盛岡南高校校舎等の活用によって期待できる効果 ②

(4) いわてを担う工業人材の育成に向けた基幹となる工業高校3校体制



(5) 県有施設の有効利用

→ 全施設の新築に比べ、早期の整備が可能

イ 盛岡南高校校舎等の活用によって期待できる効果 ③

(6) 学校と地域や地域産業との連携の強化

→ 新設する実習棟など、施設の積極的な地域開放を検討

(7) 隣接する両校（統合新設校と移転後の盛岡工業高校）が切磋琢磨できる環境

→ スポーツ強豪校としての両校の活躍に期待

8 水沢工業・一関工業 統合新設校の姿について

ア 県南地域の状況 ①

(1) 県南地域の中学校卒業生数の推移

(R2までは実数。R7以降は推計値) (上段:人, 下段:%)

地区等	H1※	H12	H22	R2	R7	R12	R16
胆江ブロック	2,269	1,852	1,459	1,174	1,018	919	790
H1比	100.0	81.6	64.3	51.7	44.9	40.5	34.8
両磐ブロック	2,355	1,882	1,359	1,082	961	791	635
H1比	100.0	79.9	57.7	45.9	40.8	33.6	27.0
合計	4,628	3,734	2,818	2,256	1,979	1,710	1,425
H1比	100.0	80.7	60.9	48.7	42.8	37.0	30.8

※ 中学校卒業生数がピークとなった年度

平成元年の中学校卒業生数を100%として比較すると、

令和2年 ⇒ 胆江ブロック 約52% (▲48%)、両磐ブロック 約46% (▲54%)

令和16年 ⇒ 胆江ブロック 約35% (▲65%)、両磐ブロック 約27% (▲73%)

ア 県南地域の状況 ②

(2) 募集定員、入試倍率等の推移（県南地区）

学 校	H1			H12			H22			R3		
	学級数	定員	倍率									
胆江ブロック	42	1,825	1.14	37	1,480	1.10	29	1,160	0.99	23	920	0.74
両磐ブロック	42	1,835	1.17	38	1,520	1.13	28	1,120	1.05	22	880	0.97
合計	84	3,660	1.16	75	3,000	1.11	57	2,280	1.02	45	1,800	0.85

※ 胆江ブロック… 奥州市、金ヶ崎町の県立高校、両磐ブロック… 一関市の県立高校

中学校卒業生数の減少に応じて学級減等を実施し、いずれのブロックにおいても募集定員を削減してきたものの、入試倍率は低下している。

ア 県南地域の状況 ③

(3) 募集定員、入試倍率等の推移（統合対象校）

学 校	H1			H12			H22			R3		
	学級数	定員	倍率									
水沢工業	4	160	1.16	4	160	1.27	4	160	0.79	4	160	0.66
一関工業	4	160	1.30	4	160	1.27	4	160	1.00	3	120	1.01
合計	8	320	1.22	8	320	1.24	8	320	0.90	7	280	0.83

中学校卒業生数の減少に伴い、両校とも入試倍率は低下している。

ア 県南地域の状況 ④

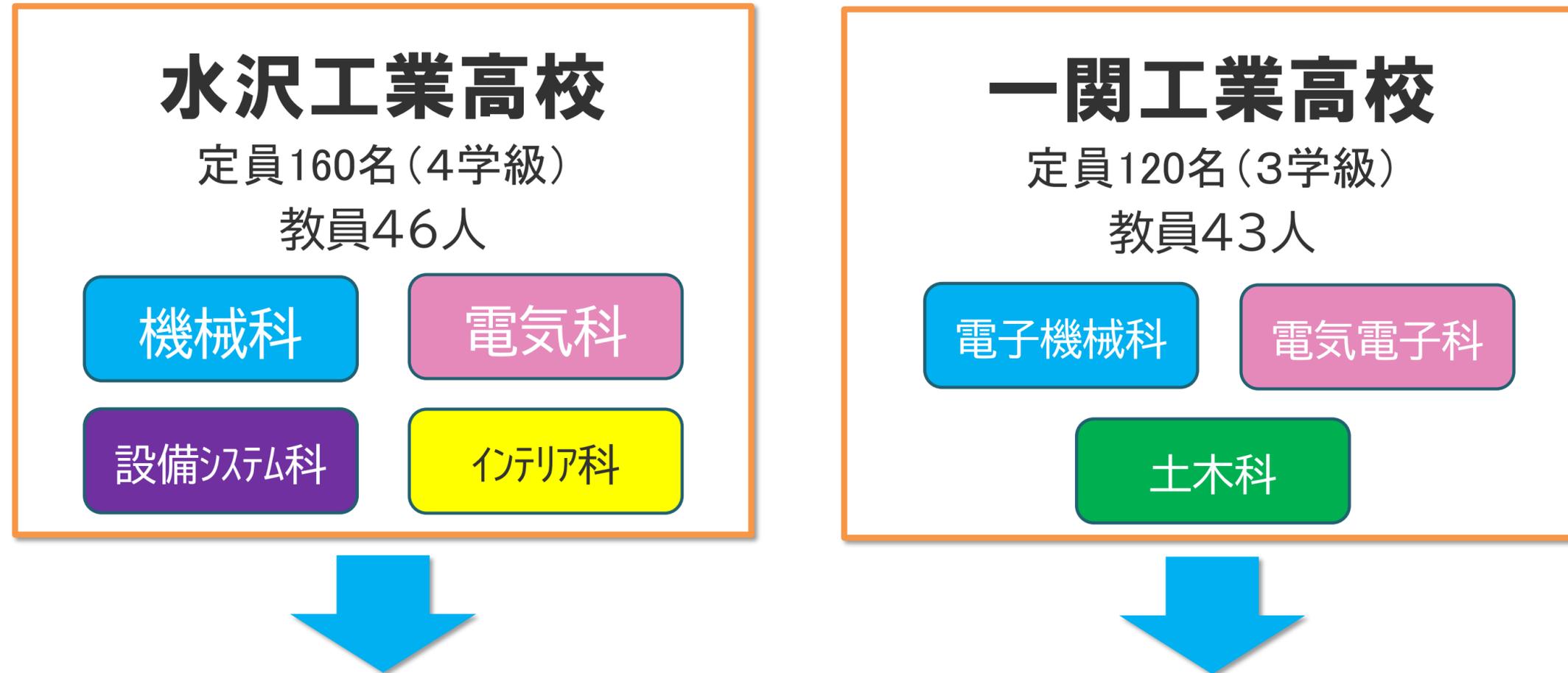
(4) 入学者数の推計 ※H30・H31・R2年度入試の進学率、及び中学校卒業者数の推移をもとに算出

学 校	R3 (実績)		入 学 者 数 の 推 計							
	定員	合格者	R4	R5	R6	R7	R10	R12	R14	R16
水沢工業	160	113	145	142	141	132	125	120	116	101
一関工業	120	114	121	116	113	111	99	91	85	74
合計	280	227	246	258	254	243	224	211	201	175

※ 学級減により定員が変更となった場合、推計値が現在の定員を上回ることもある。

後期計画期間(R3～R7)後においても入学者数のさらなる減少は想定されるため、**将来を見据えた対応が喫緊の課題**である。

イ 両校を単独で存続する場合の懸念



中学校卒業生数の減少が見込まれるため、現状のまま維持した場合、将来において学級減を伴う学科改編の可能性もあり、両校の特長的な学びが整理されることも想定される。

ウ 水沢工業高校と一関工業高校における統合の概要 ①

統合新設校

地域社会や産業の状況等を踏まえ、産業人材のニーズに幅広く対応

学校統合の内容

水沢工業高校

定員160名(4学級) 教員46人

機械科

電気科

設備システム科

インテリア科

ブロックを越えた 工業高校の発展的統合

- ・規模を拡大して**特色ある学びを確保**
- ・**AI等の技術革新に対応した学びの実現**

一関工業高校

定員120名(3学級) 教員43人

電子機械科

電気電子科

土木科

県南地域の工業教育の基幹校となる大規模校の設置 (令和7年度以降)

定員240人(6学科6学級) 教員70人程度

新たな学科の創設

機械科

電気電子科

設備システム科

インテリア科

土木科

AI等関連学科

地場産業を担う
人材の育成

社会インフラ等
地域を支える
人材の育成

産業界のニーズ
等に対応した
人材の育成

ウ 水沢工業高校と一関工業高校における統合の概要 ②

統合新設校についての構想

- ① 水沢工業高校と一関工業高校の統合により、**新たな高校をR7以降に設置**
(統合に伴い**両校を閉校し、統合新設校が開校する。**)
- ② 盛岡工業高校、黒沢尻工業高校と並ぶ、**県南における工業教育の基幹校として整備**
- ③ 学校規模を拡大することにより、**両校の特色ある学びを確保するとともに、ITやIoT、AI等、これからの技術革新に対応した学びを実現する学科の創設を検討**
- ④ 工業の専門的な学びが揃い、連携した学びも可能となることにより、**地場産業を担う人材、社会インフラなど地域を支える人材、産業集積の状況**(ILC誘致に伴う関連産業を含む)**や産業界のニーズに対応した人材等を育成**
- ⑤ **新校舎建設を前提とし、工業教育に関する最新の施設・設備を整備**
(水沢工業校舎 = S44年 築52年, 一関工業校舎 = S59年 築36年)

ウ 水沢工業高校と一関工業高校における統合の概要 ③

統合新設校の設置場所等について

- ① 現時点において、統合新設校の設置場所は未定
- ② 統合新設校における学びの内容に応じた校舎・施設等を整備し、充実した教育活動を展開するうえで適切な立地であること、及び通学の利便性等を重視して設置場所を選定
- ③ 外部有識者等で構成する委員会の設置による協議を通じた候補地の選定なども検討

ウ 水沢工業高校と一関工業高校における統合の概要 ④

統合新設校についての今後の検討事項

- ① 校舎の設置場所
- ② 校名、校歌、校訓、制服、校章
- ③ 学科の構成、教育課程等に関する事
- ④ 部活動に関する事
- ⑤ 教育活動の詳細に関する事(学校行事、生徒会 等)
- ⑥ PTAや同窓会等の組織に関する事 等

両校の関係者(校長等、PTAや同窓会の代表者)、奥州市や一関市の教育委員会の代表者、地域の中学校の代表者等で構成される**統合検討委員会**を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討

エ 統合によって期待できる効果 ①

(1) 最新設備・機器を使用した工業実習

→ 時代に対応した工業教育の実践が可能

(2) 時代に対応した学び（工業教育の充実）

→ ITやIoT、AI等、これからの技術革新に対応した学びの導入

最新設備・機器を使用した実習

■ 高性能PC端末を配備した実習室の整備
・装置の制御、画像の分析等多様な用途に活用

■ マシニングセンタ
・自動工具交換機能を有した多種類の加工を連続で行えるNC(数値制御)工作装置

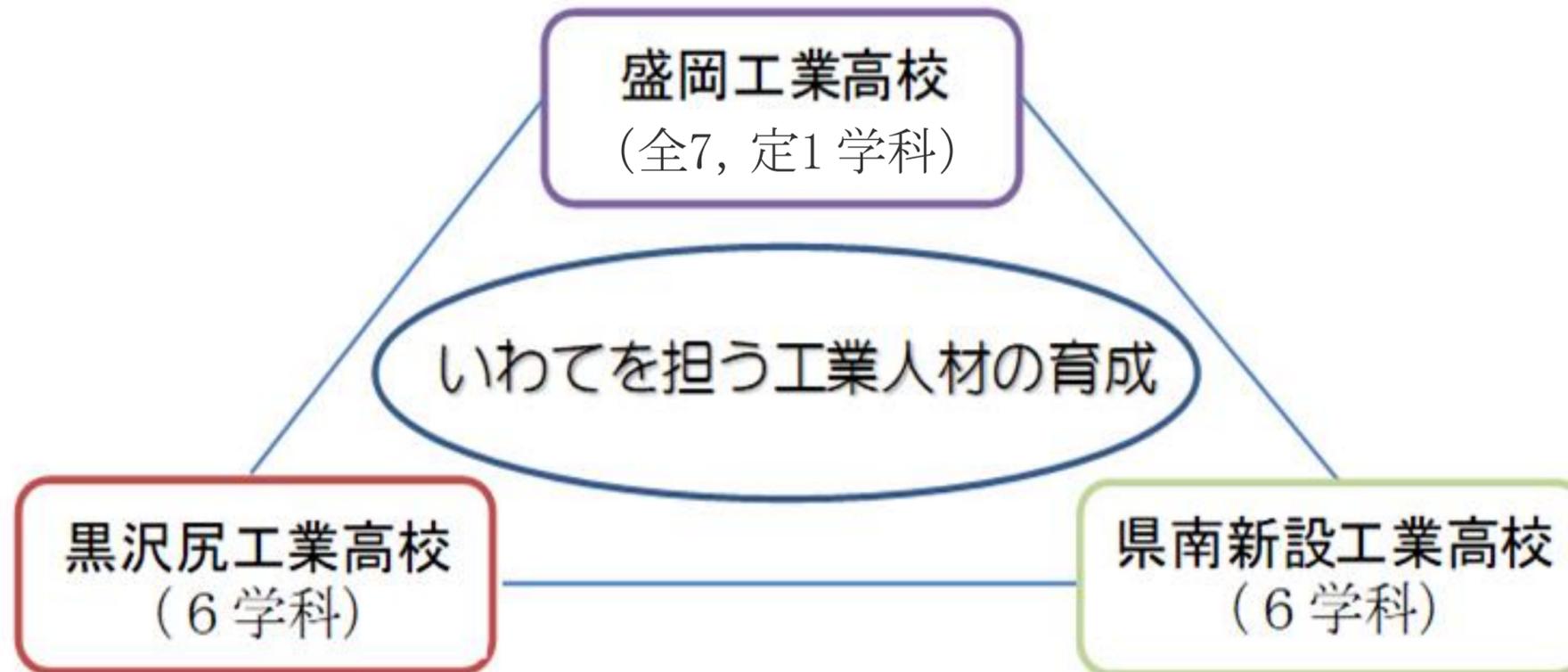
■ 金属造形3Dプリンタ
・コンピュータで入力された数値をもとに、金属等の加工品を作成する産業用装置



経済産業省公表資料より抜粋

エ 統合によって期待できる効果 ②

(3) いわてを担う工業人材の育成に向けた基幹となる工業高校3校体制



(4) 学校と地域や地域産業との連携の強化

→ 新設する実習棟など、施設の積極的な地域開放を検討

エ 統合によって期待できる効果 ③

(5) 地域企業の技術力と競争力の向上などによる一層の産業集積の推進

→ IoT等の革新技術を導入した専門教育、及び時代に対応した高いレベルの人材育成を行うことにより、地域企業の生産性向上に資する人材育成や企業誘致の促進を期待

(6) 学校規模の拡大による活動の活性化

→ 部活動の充実、選択肢の増加、新たな部活動新設の可能性
体育祭、文化祭等における企画内容の拡大、充実

9 福岡工業・一戸 統合新設校の姿について

ア ニ戸ブロックの状況 ①

(1) ニ戸ブロックの中学校卒業生数の推移

(R2までは実数。R7以降は推計値) (上段:人, 下段:%)

地区等	H1※	H12	H22	R2	R7	R12	R16
ニ戸ブロック	1,248	830	625	422	368	286	257
H1比	100.0	66.5	50.1	33.8	29.5	22.9	20.6

※ 中学校卒業生数がピークとなった年度

(2) 募集定員、入試倍率等の推移(ニ戸ブロック)

学 校	H1			H12			H22			R3		
	学級数	定員	倍率	学級数	定員	倍率	学級数	定員	倍率	学級数	定員	倍率
ニ戸ブロック	25	1,100	1.03	21	840	0.87	16	640	0.83	12	480	0.63

○平成元年の中学校卒業生数を100%として比較すると、
令和2年 ⇒ 約34% (▲66%) 令和16年 ⇒ 約21% (▲79%)

○中学校卒業生数の減少に応じて学級減等を実施し、募集定員を削減してきたものの入試倍率は低下している。

ア ニ戸ブロックの状況 ②

(3) 募集定員、入試倍率等の推移（統合対象校）

学 校	H1			H12			H22			R3		
	学級数	定員	倍率									
福岡工業	4	160	1.09	3	120	0.97	2	80	1.05	2	80	0.68
一 戸	6	265	1.05	4	160	0.87	3	120	0.99	3	120	0.45
合計	10	425	1.06	7	280	0.91	5	200	1.02	5	200	0.55

中学校卒業生数の減少に伴い、両校とも入試倍率は低下している。

ア ニ戸ブロックの状況 ③

(4) 入学者数の推計 ※H30・H31・R2年度入試の進学率、及び中学校卒業者数の推移をもとに算出

学 校	R3 (実績)		入 学 者 数 の 推 計							
	定員	合格者	R4	R5	R6	R7	R10	R12	R14	R16
福岡工業	80	57	42	39	34	37	35	30	29	27
一 戸	120	54	88	80	77	78	77	61	60	56
合計	200	111	130	119	111	115	112	91	89	83

後期計画期間(R3～R7)後においても入学者数のさらなる減少は想定されるため、**将来を見据えた対応が喫緊の課題**である。

イ 現状に基づく将来の懸念

- ・ 二戸ブロックの**中学校卒業生数は今後も減少**し、両校の入学者の推計からは、**将来において、福岡工業高校2学級と一戸高校3学級を維持することが難しい状況**
- ・ **そのため、福岡工業高校の単独での維持が困難であり、一戸高校も学級減を伴う学科改編等により学びの多様性の確保が難しくなる**とともに、**学校の活力低下が懸念**される。

両校を統合することにより、**専門分野に関する特色ある学科等の機能を維持しながら、二戸ブロックの専門教育の拠点となる学校を整備する。**

ウ 福岡工業高校と一戸高校における統合の概要 ①

統合新設校

専門的な学びを希望する より多くの生徒が集う学校へ

学校統合の内容

福岡工業高校

定員80名(2学科2学級) 教員27人

機械システム科

電気情報システム科

地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる学校を整備

- ・コース等により工業の学びを維持
- ・総合学科における系列を維持
- ・地元企業や団体と協力した学びを实践

一戸高校(総合学科)

定員120名(1学科3学級) 教員38人

人文・自然系列

情報ビジネス系列

生活・文化系列

介護・福祉系列

二戸ブロックにおける専門教育を担う学校の設置 (令和6年度)

定員160人：4学級校 (工業学科1学級、総合学科3学級) 教員50人程度

工業科

機械系コース

電気系コース

総合学科

人文・自然系列

情報ビジネス系列

生活・文化系列

介護・福祉系列

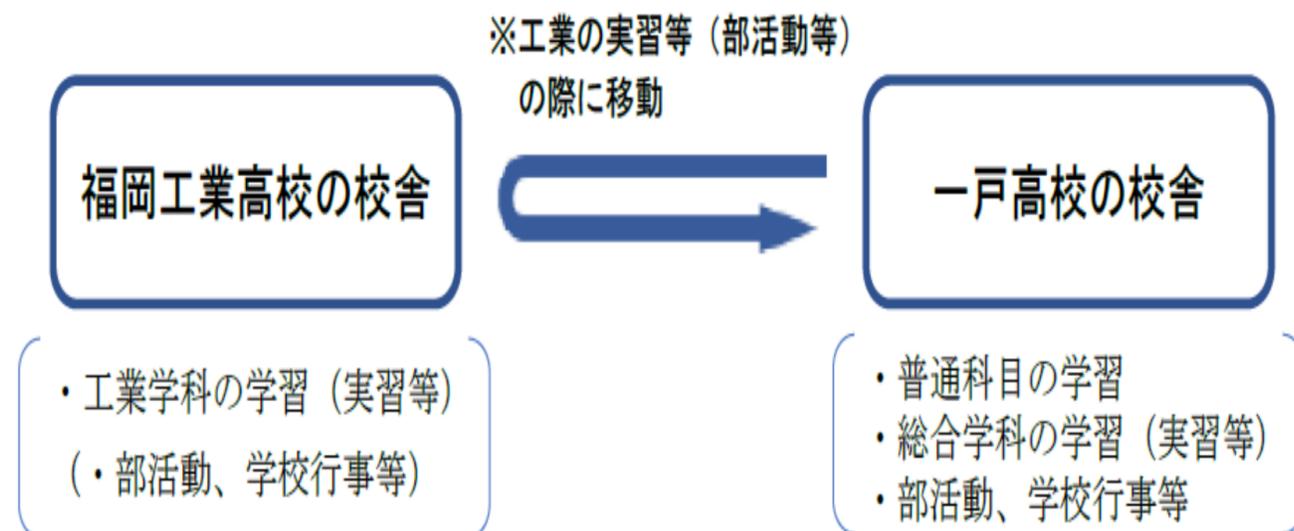
ウ 福岡工業高校と一戸高校における統合の概要 ②

統合新設校についての構想

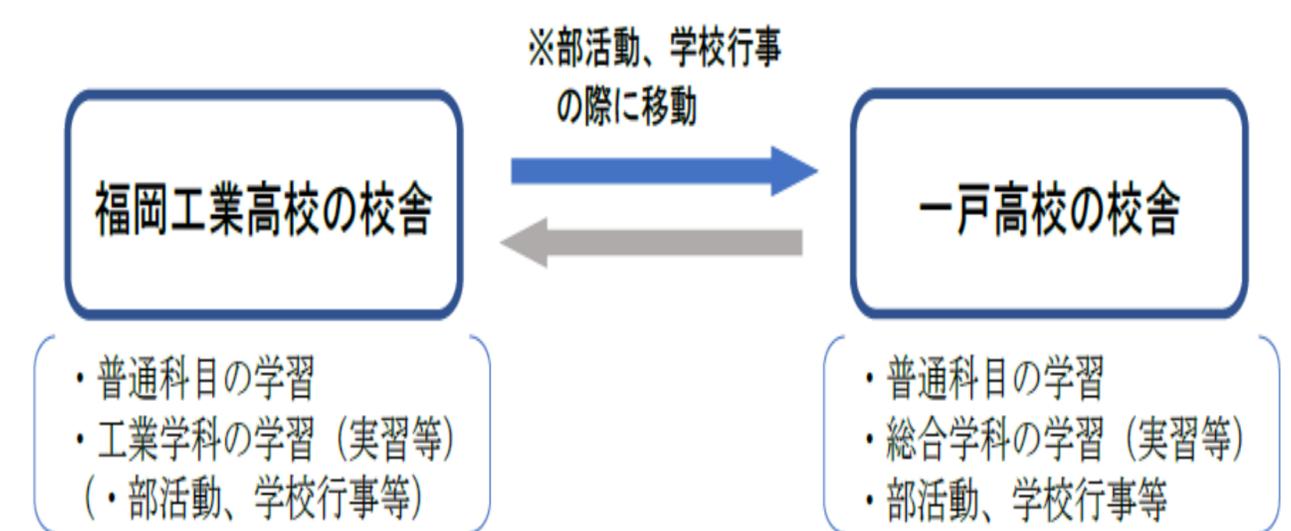
- ① 福岡工業高校と一戸高校の統合により、**新たな高校をR6に設置**
(統合に伴い**両校を閉校し、統合新設校が開校する。**)
- ② **地元企業や団体と協力した学び**を实践 (地域にある多様な産業に関連し、生産・加工・流通・販売を一体的に捉え、生産性の向上や高付加価値化への取組 等)
- ③ 福岡工業高校と一戸高校の校舎等を活用した**校舎制**で運用

【校舎制について】

A: 実習移動型



B: 独立校舎型



ウ 福岡工業高校と一戸高校における統合の概要 ③

統合新設校についての今後の検討事項

- ① 統合の形態(校舎制の導入 等)
- ② 校名、校歌、校訓、制服、校章
- ③ 学科の構成、教育課程等に関する事
- ④ 部活動に関する事
- ⑤ 教育活動の詳細に関する事(学校行事、生徒会 等)
- ⑥ PTAや同窓会等の組織に関する事 等

両校の関係者(校長等、PTAや同窓会の代表者)、二戸市や一戸町の教育委員会の代表者、地域の中学校の代表者等で構成される**統合検討委員会**を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討

エ 統合によって期待できる効果

- (1) 両学科の**工業・商業・農業・家庭・福祉が連携し**、「**総合的な探究の時間**」等を活用した**学びの交流**の展開
- (2) 学校規模の拡大による学校活動や部活動等の充実
- (3) **生徒の男女バランスの平準化**が図られることによる**教育活動の活性化**を期待
(福岡工業：男子121人、女子10人 + 一戸：男子92人、女子178人
⇒ 計：男子213人、女子188人) ※R2.5時点
- (4) 魅力ある学校づくりを通じて二戸ブロックから**流出する生徒を抑制し**、**二戸地域の産業・社会を支える人材を**、この地域で育成

【参考】 施設の地域開放等について

【参考】学校と地域・地域産業との連携強化，施設の積極的な地域開放

Fab terrace iwate

場づくり ～ファブテラスいわて～

イメージ

学校開放のイメージ
〔参考例〕

ファブテラスいわて
(ミニラボ)

- 2018年(H30)3月に「ファブテラスいわて」を設置
- 県内メーカーが集い、創作を楽しむ場を提供



【『ファブテラスいわて』の名称について】

「ファブスペース」「ファブラボ」として定着している“ファブ”に、設置場所のアイーナ3階ロビー展示スペースの“テラス”のような明るさが未来を照らすイメージを加えました。

【参考】学校と地域・地域産業との連携強化，施設の積極的な地域開放

Fab terrace iwate

ファブテラスいわて

メイカームーブメントを推進する拠点である「ファブテラスいわて」を第4次産業革命のゲートウェイとして最大限活用し、岩手にいながら県民に最先端のものづくり体験を提供



多様なものづくり文化の醸成

社会生活を豊かにするとともに、本県ものづくり産業を支える人材を育成

イメージ

学校開放のイメージ
〔参考例〕

ファブテラスいわて
(ミニラボ)

【主な設備】



3Dプリンター



レーザーカッター



デジタル刺繍マシン